

1971年8月7日 第3種郵便物認可(毎月1・6の日発行)

2021年11月22日発行 SSKA 頸損 通巻10649号

SSKA 頸 損

KEISON No. 135

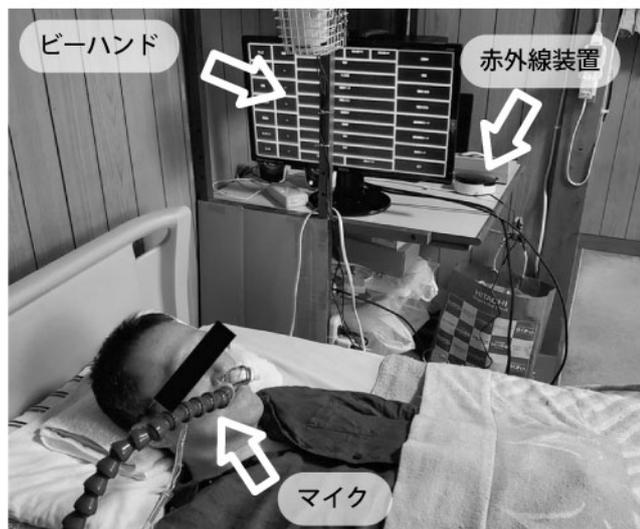
目 次

特集 アンケート調査報告～コロナ禍での生活の実態について～	1
頸髄損傷者の排泄基礎調査ご協力のお願い	13
支部の活動紹介(香川支部)	14
横隔膜ペースメーカー・ミニ勉強会報告	16
頸損解体新書 2020 完成報告会のご報告	17
頸損解体新書 2020 発刊のお知らせ	19
第35回リハ工学カンファレンス in 北九州報告	20
2021年4都県合同交流会@オンライン報告	21
第16回四国頸損の集い 2021 報告	22
団体紹介: 障害者の生活保障を要求する連絡会議	23
製品紹介: 「BeHAND (ビーハンド)」音声認識 AI 環境制御システム	24
お役立ち!?	26
報道・情報ピックアップ	27
事務局からのお知らせ	28
大阪頸髄損傷者連絡会の会長就任挨拶	29
全国頸損連絡会&関係団体”年間予定”	30
全国頸髄損傷者連絡会連絡先	31

音声認識 AI 環境制御システム

『BeHAND (ビーハンド)』

介助負担の軽減と自立支援に。



ビーハンドは音声認識 AI を利用した環境制御システムです。

パソコン・テレビ・レコーダー・エアコン・照明・ベッド・電気錠・ドアホン等、あなたの言葉で操作が出来ます。



【ビーハンド基本システム内容】TAISJ-ID : 02034-000001

税込価格 303,600 円～ (設置設定費込)

- ①ビーハンド本体 (パソコン別途)
- ②単一指向性のフレキシブルマイク (約 75cm)
- ③赤外線学習装置

※インターネット必要 Windows10 対応

主な特徴

自由な
言葉

なまり
方言 OK

日本全国
訪問設置

一般家電
空調制御

IP 電話
受発信

電動ベッ
ド制御

電気錠
制御

全設定
お任せ

設置設定
費込み

電源ポン
簡単準備

日常生活
用具給付

複数 PC
登録

登録台数
14 台

登録信号
800 ボタン

リモート
遠隔作業

365 日
アフター

詳しい情報は、ホームページをご覧ください。ご質問等は下記まで電話もしくはメールでご連絡ください。また、無料の出張デモをさせていただいておりますので、ご希望の方はご予約ください。

【開発・販売】

リフォームレシピ 岡山県岡山市中区高島二丁目 5-8-2
TEL : 090-9467-5660 メール : kataoka@reform-recipe.com

ビーハンド

検索

アンケート調査報告

～コロナ禍での生活の実態について～

全国頸髄損傷者連絡会 宮野 秀樹

本年（令和3年）8月8日（日）に、兵庫県民会館・けんみんホールにおいて第23回兵庫県総合リハビリテーション・ケア研究大会が、大会テーマを「コロナ禍が我々の生活にもたらしたもの ～ 障がい当事者の目線から考える ～ 」として開催されました。大会の開催にあたり、「コロナ禍での頸髄損傷者の生活実態を調査する」という目的でアンケート調査を実施しました。このアンケート調査には、当会の会員の皆様にもご協力いただきました。アンケート結果より、コロナ禍での生活動作への影響や外出頻度・福祉サービス利用の変化などに一定の知見を得ましたのでここで報告いたします。なお、この報告は、第23回兵庫県総合リハビリテーション・ケア研究大会で行ったアンケート調査報告を機関誌用に再編集したものであることをご了承ください。そして、アンケートの単純集計は全国頸髄損傷者連絡会のホームページに掲載いたしますので、そちらをご覧ください。

○アンケート対象

全国の頸髄損傷者に対しアンケートを実施（協力：全国頸髄損傷者連絡会）

回答者 57名

○アンケート実施期間

2021年5月～6月

○アンケート内容

◆大項目1【回答者の属性】

・居住地 ・性別 ・生まれ年 ・受傷後経過年数 ・障害の程度 ・同居者の有無

◆大項目2【感染症流行前の生活状況】

・医療の受診頻度 ・利用していた制度（サービス） ・外出頻度
・就労・就学について ・仕事の仕方・内容（リモートワークの活用等）

◆大項目3【感染症拡大期間の生活状況】

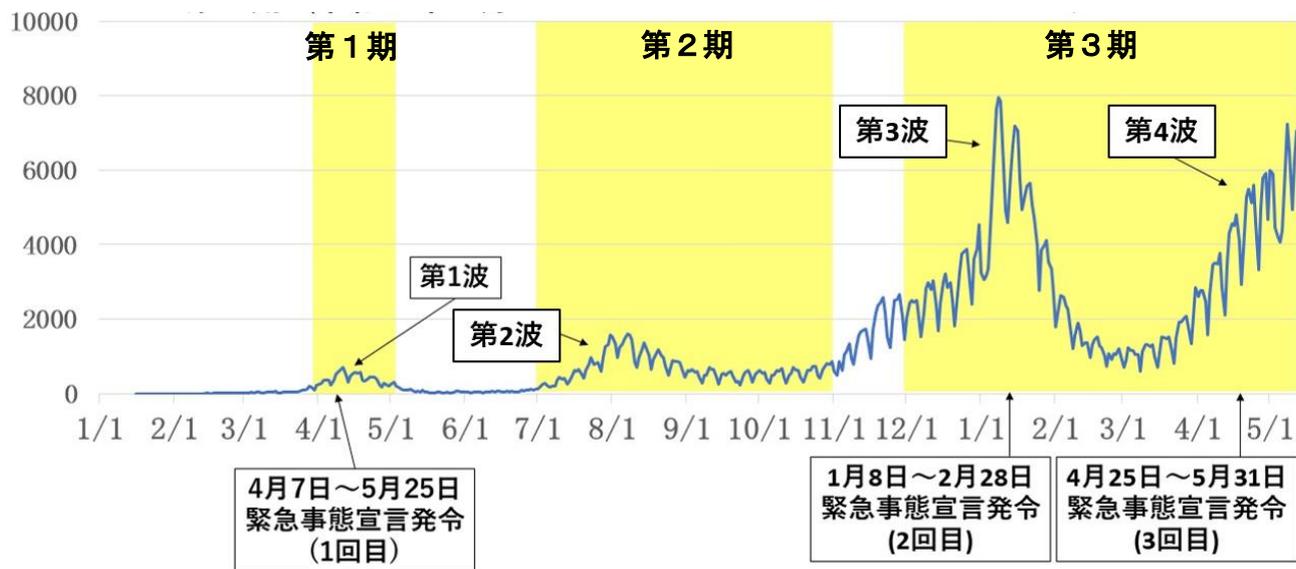
・健康面・心理面の変化 ・障害福祉サービス等の変化 ・生活動作への影響
・医療の受診等の影響 ・就労・就学への影響 ・外出頻度の変化 ・社会的な交流の変化

◆大項目4

・この1年でのリモートの環境・活用の変化、障害福祉サービスの変化
・1年間での気づき・挑戦したこと 現在の心配や不安
・これから地域・福祉・医療・社会に期待、提案したいこと（自由記載）

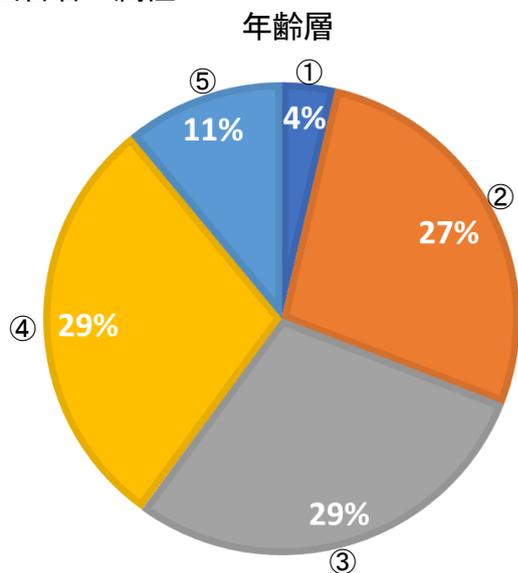
○アンケート対象時期

◆大項目3【感染症拡大期間の生活状況】については、感染拡大の時期に伴う変化を追うため、以下の3つの期間に分けてアンケートを実施



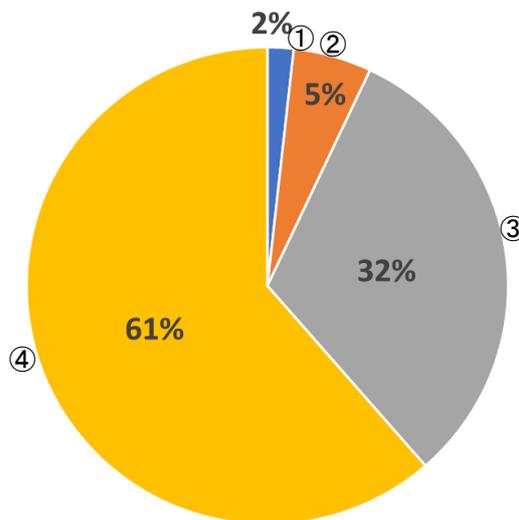
- 【 第 1 期 】 令和 2 年 3 月～5 月：発生から最初の緊急事態宣言発令
- 【 第 2 期 】 令和 2 年 7 月～11 月：宣言解除後の少し緩やかになった時期
- 【 第 3 期 】 令和 2 年 12 月から現在：再び感染拡大している時期

○回答者の属性



- ① 70代 ② 60代
- ③ 50代 ④ 40代
- ⑤ 30代

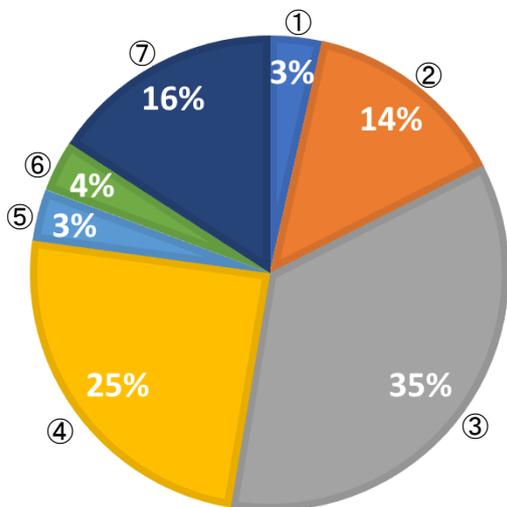
受傷(発症)からの経過年数



- ① 3年未満 ② 3年以上10年未満
- ③ 10年以上20年未満 ④ 21年以上

・60代、50代、40代からの回答が多かった。受傷からの経過年数は10年以上や21年以上のいわゆる「慢性期」の頸損者からの回答が多かった。

障がいの程度(運動機能)



・ C5、C6 からの回答が多かった。
 ・ 不全損傷の頸損者からの回答も多い。

① 首が動かせる(C3以上)

② ①に加えて、肩をあげる(すぼめる)ことができる(C4レベル)

③ ②に加えて、肘を曲げる、腕をあげることができる(C5レベル)

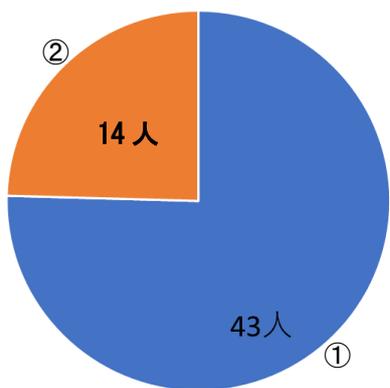
④ ③に加えて、手首を反らすまたは肘を伸ばすことができる(C6レベル)

⑤ ④に加えて、手の指を開くことができる(C7レベル)

⑥ ⑤に加えて、手の指をしっかり握ることができる(C8レベル)

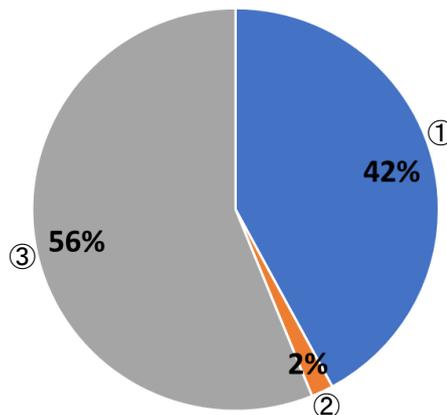
⑦ 不全損傷として、①～⑥の動作がまばらにできる、左右で大きく異なる、手指は動かせるが、体幹、足が動かせるなど

回答者の性別



① 男性 ② 女性

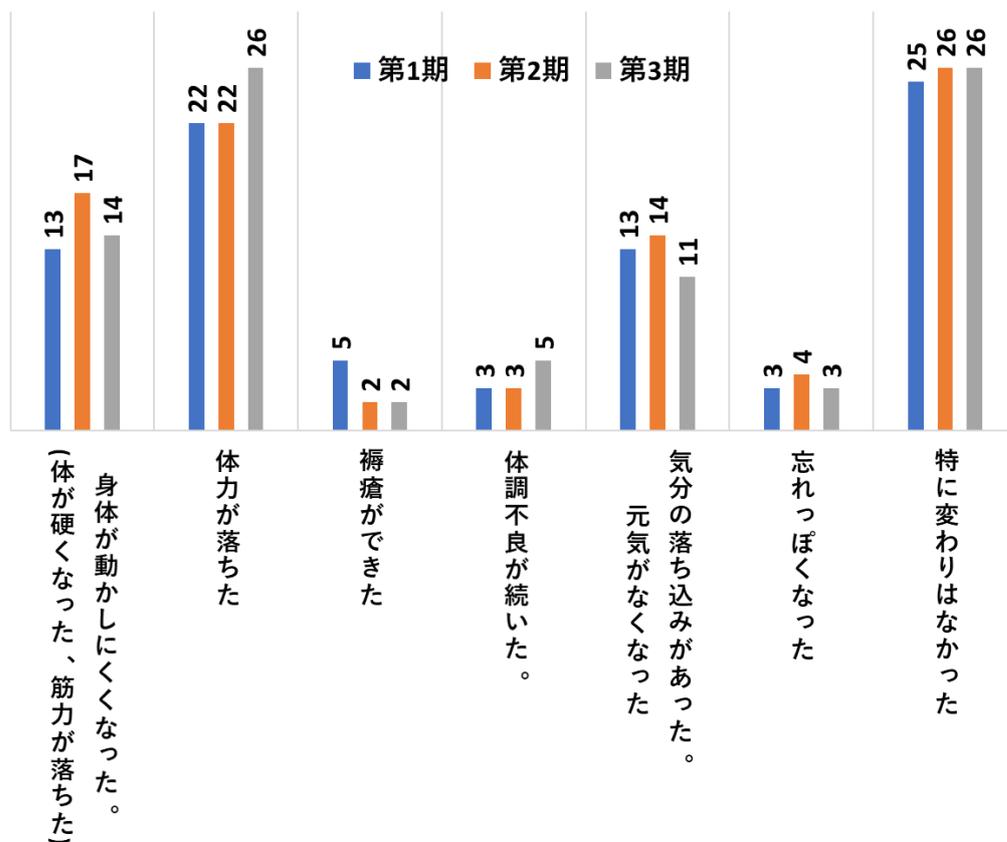
同居者の有無について



① 一人暮らし
 ② 障害者支援施設
 ③ 同居人がいる(家族・友人等)

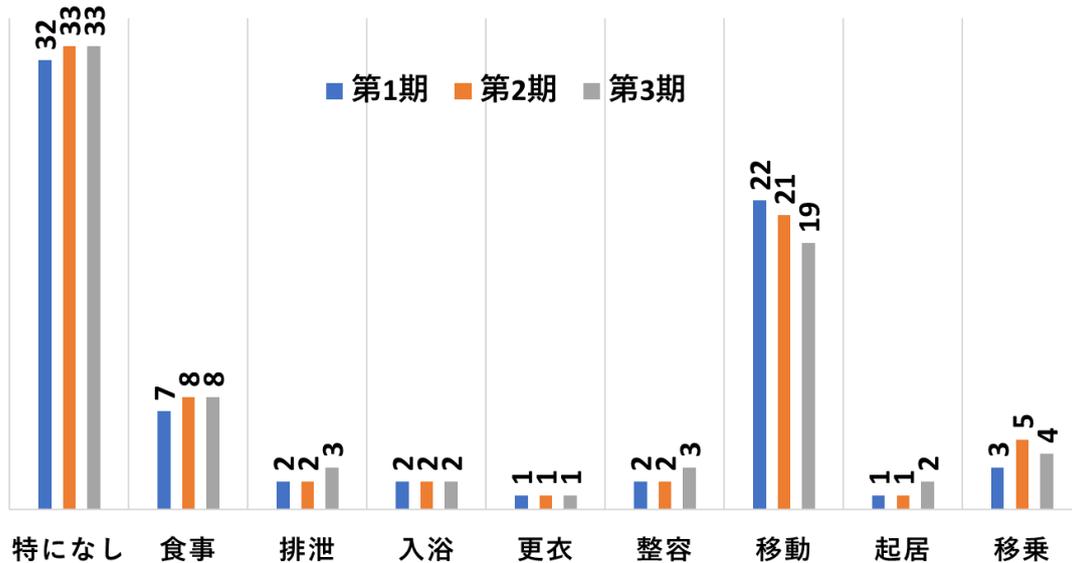
・ 男性からの回答が多かった。同居者の有無は、同居人がいる人からの回答が半数以上を占めており、次いで一人暮らしの頸損者からの回答が多かった。

○コロナ禍での健康面・心理面の変化



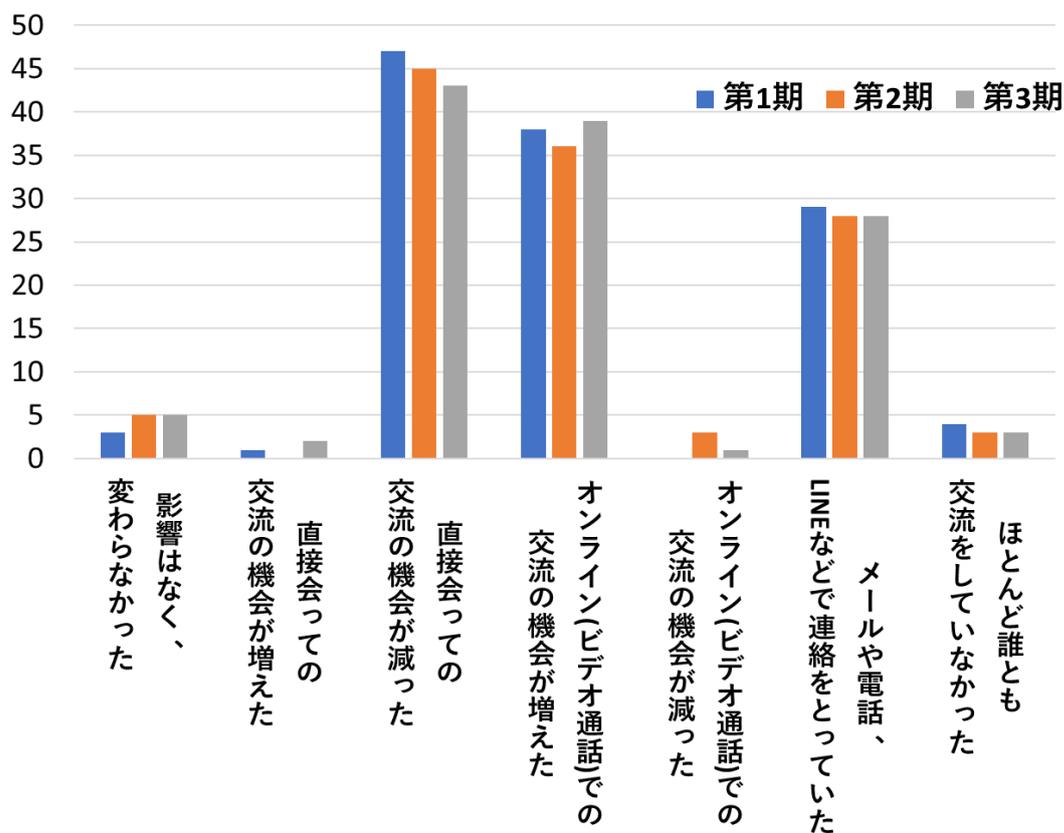
・約半数は「特に変わりがなかった」との回答であったが、体力や気分の落ち込みがあった頸損者も多い。

○コロナ禍で影響を受けた生活動作①



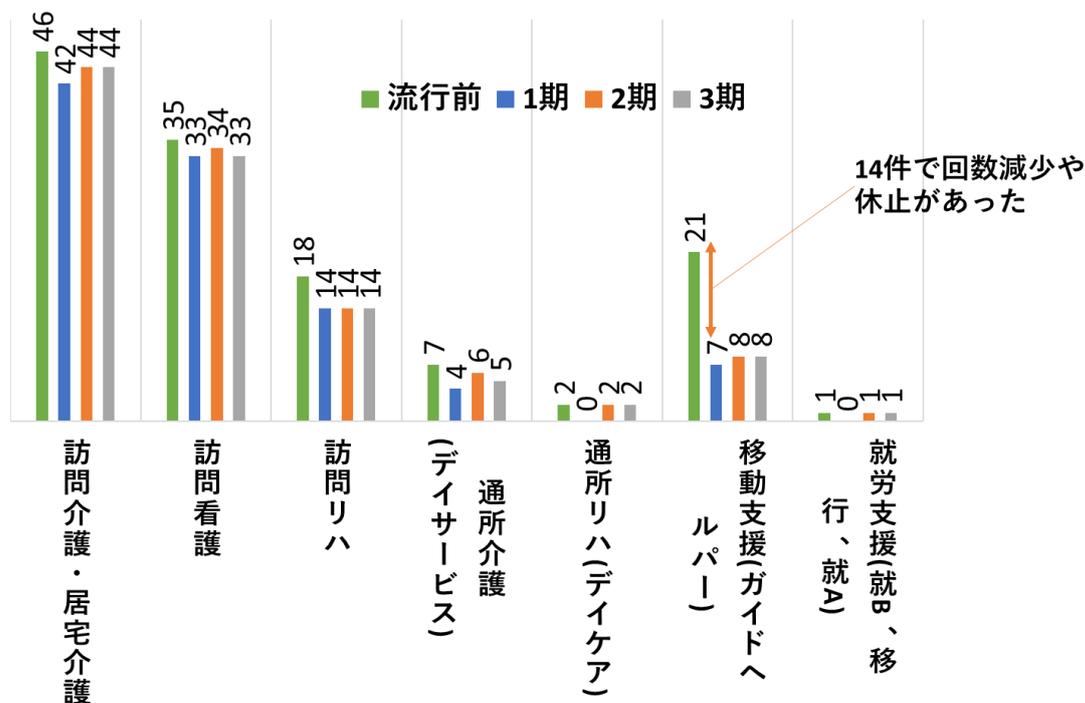
・生活動作の中で、最も影響を受けたものは「移動」であった。次いで「食事」。
 ・57名中 32～33名が「特になし」と回答(約 56%)。

○コロナ禍での社会的な交流の変化



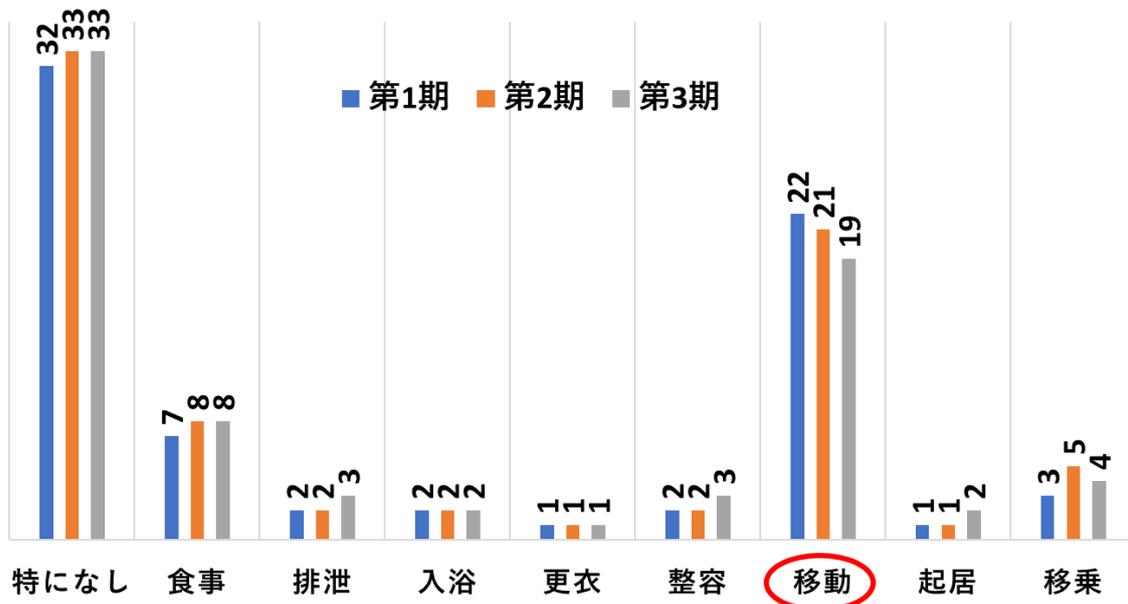
・コロナ禍で対面式の交流は減ったが、多くの者はオンラインを活用した交流や連絡に切り替えている。

○コロナ流行前後での障害福祉サービスの変化



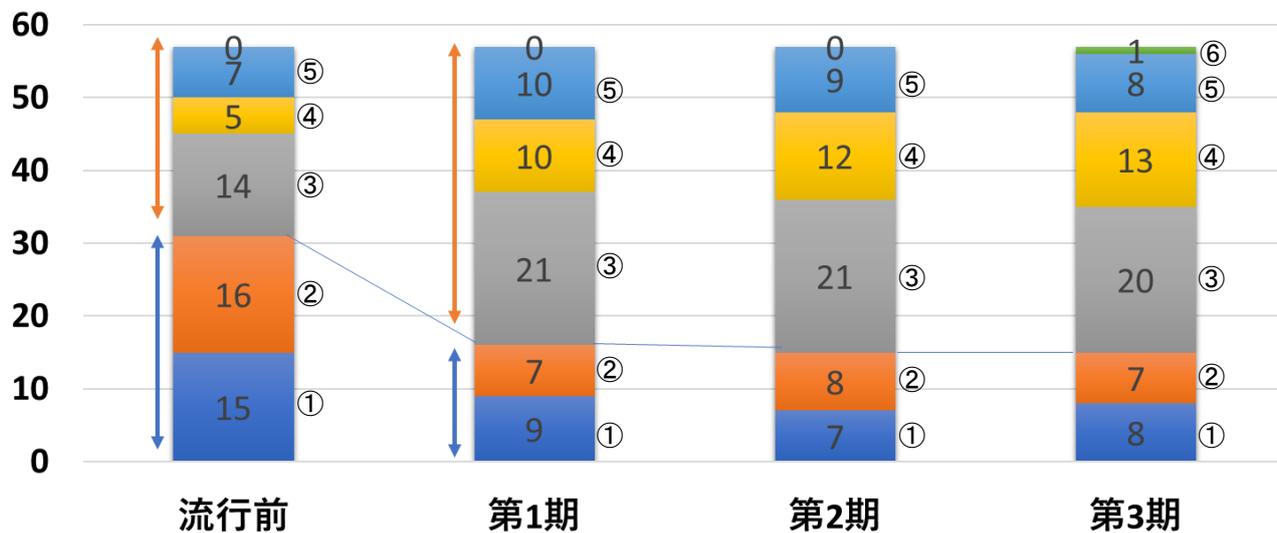
・移動支援サービスの活用が減ったのは、コロナ禍での外出自粛が影響していると考えられる。

○コロナ禍で影響を受けた生活動作②



・生活動作の中で、最も影響を受けたものは「移動」であったと前述した。以降に「外出頻度の変化」についてのデータを示す。

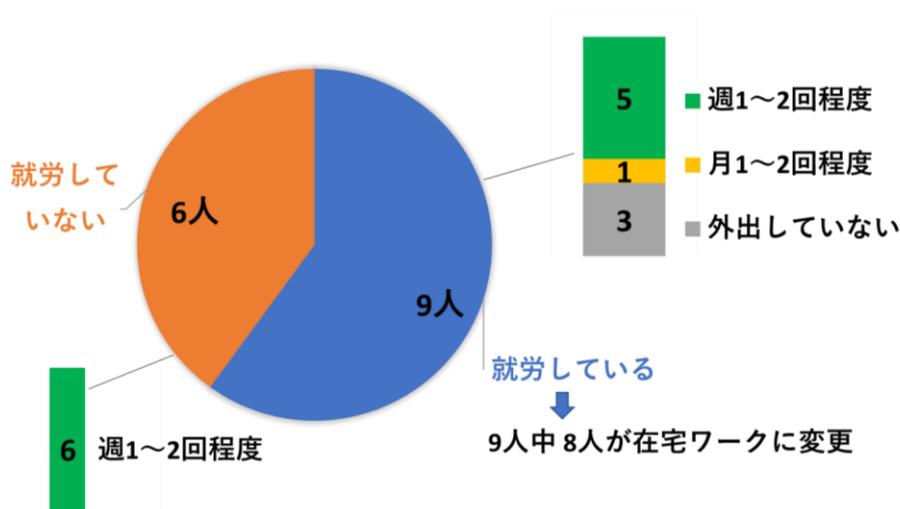
○外出頻度の変化



- ① ほぼ毎日 ② 週に3~5回程度 ③ 週に1~2回程度
- ④ 月に1~2回程度 ⑤ 外出していない ⑥ その他

・流行前に「ほぼ毎日」・「週に3~5回程度」の頻度で外出していたグループでは、流行後第1期の時点で15人(約47%)に外出頻度の減少がみられた。

第1期で外出頻度の減少がみられた15人



- ・15人中、8人の仕事が在宅ワークになり、その内、4人は外出頻度が大きく低下した。
- ・15人中、11人は週1~2回程度の頻度で外出をしていた。

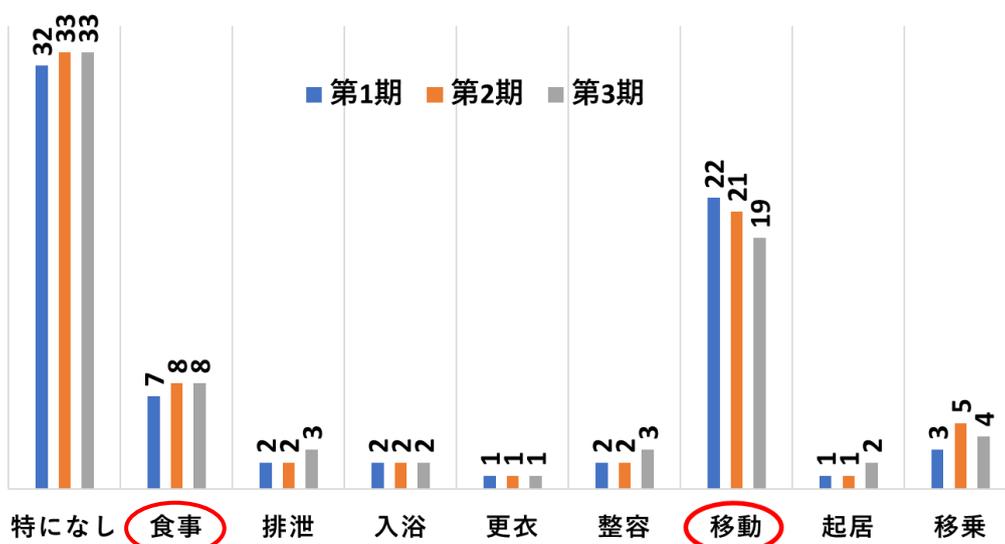
第2期の場合

- ・外出頻度が減少したのは16人で、その内、5人の仕事が在宅ワークになった。
- ・在宅ワークになった5人の内の4人は外出頻度が大きく低下した(第1期に引き続き)。
- ・16人中、11人は週1~2回程度の頻度で外出をしていた。

外出頻度が減少した理由として、

- ・就労している人で、在宅ワークに変更となったことで大きく外出頻度が低下した人は4人いた。
- ・それ以外の人は、頻度は減少しているものの、週1~2回は外出していた。

○コロナ禍で影響を受けた生活動作③



- ・生活動作の中で、最も影響を受けたものは「移動」と次いで「食事」であることを述べた。以降に、「移動」に影響を受けた人の外出頻度と移動支援との関係と影響を受けた「食事」についてデータを示す。

○「移動」に影響を受けた人の外出頻度と移動支援(ガイドヘルパー)との関係

第1期で生活動作上、「移動」に影響があった22人
(内ガイドヘルパーの利用11名)

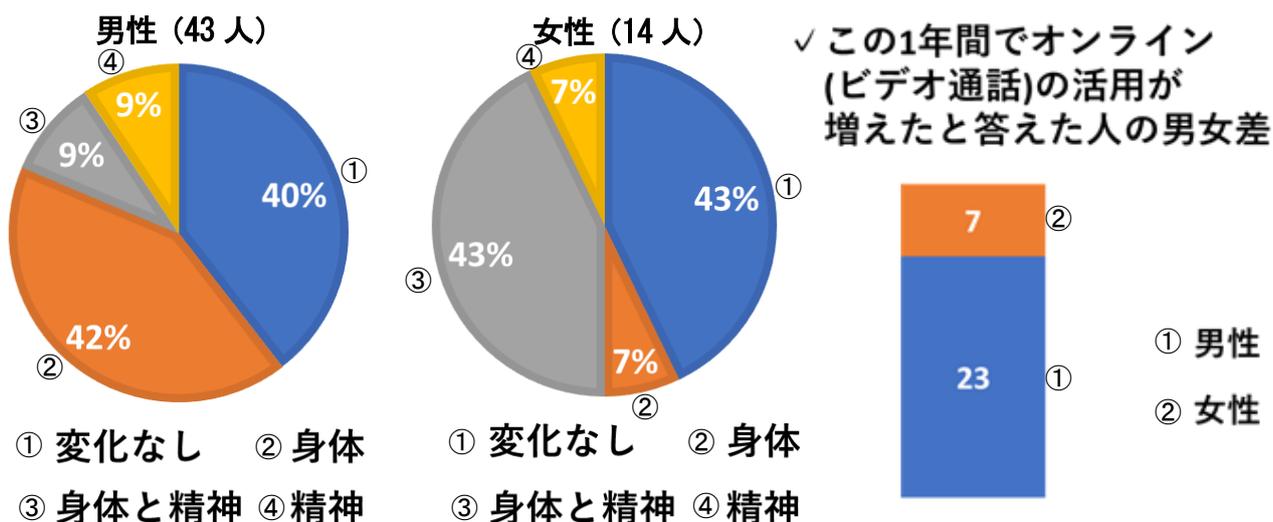


- ・コロナ禍により、以前より活用していたガイドヘルパーが利用し難くなった可能性がある。
- ・ガイドヘルパーを利用して行っていた外出はしなくなったが、自身の能力で可能な範囲の外出は継続していたと推察される。

○コロナ禍での生活動作への影響：食事について

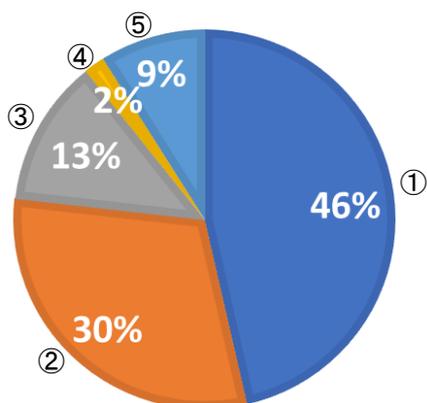
- ・回答者57人中、コロナ禍により食事に影響があったのは、第1期：7人、第2期：8人、第3期：8人
- ・どのような影響があったのか、回答者3人に電話確認を実施
 - ①感染対策としてフェイスマスク、手袋の着用が必要となり、食事介助を頼みづらくなった。
 - ②外出頻度が減り体力・筋力が低下し、腕が上がりにくくなり、自助具を用いても介助が必要になった。
 - ③食材の買い出しがネット注文に変わった。

○コロナ禍での「性別」と「健康面・心理面の変化」の関係

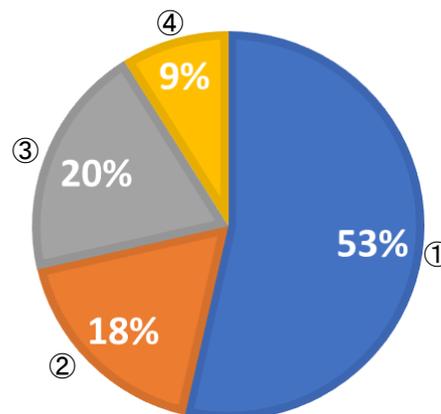


- ・男性は女性よりも身体面に影響を受けたという割合が多く、精神面への影響は少なかった。
- ・女性の方が精神面への影響が大きかったことから、オンラインによる交流の機会が多いのではないかと推察したが、オンラインの活用には性差は見られなかった。
(回答者の男女差 男性：女性＝75%：25%)

○オンライン（ビデオ通話）の環境整備について



○オンライン（ビデオ通話）等の活用について



- ① 流行前からオンライン環境は整っていた
 - ② 第1期で環境を整えた
 - ③ 第2期で環境を整えた
 - ④ 第3期で環境を整えた
 - ⑤ まだ整っていない
- ① この1年間でオンライン（ビデオ通話）の活用が増えた
 - ② この1年間で電話、メール、LINE等SNSの活用が増えた
 - ③ 新型コロナが発生する前から、オンライン（ビデオ通話）は活用していた
 - ④ あまりオンライン（ビデオ通話）を活用していない

- ・感染症流行前からオンライン環境が整っていた人が46%で、第1期で環境を整えた人を含めると全体の76%
- ・非常に早期からオンライン環境に対応していた

○まとめ

- ・今回、新型コロナウイルス感染症の流行により障がい当事者である頸髄損傷者の生活にどのような変化があったのかを調査する目的でアンケートを実施した。
- ・アンケート対象は全国の頸髄損傷者とし、57名より回答を得た。

- 感染症流行前に通勤で就労していた人の内、コロナ禍で在宅ワークに変更となったことで、半数の人の外出頻度が大きく減少した。
- 感染症流行前より日常的に外出していた人(週3日以上)は外出頻度の減少は認めたが、コロナ禍でも一定の外出の機会を持っていた。
- コロナ禍でのサービスの影響については、訪問看護・介護の回数が減少した人は少なく、移動支援(ガイドヘルパー)の利用回数の減少があった人が多かったが、その人の外出頻度に影響は見られなかった。
- 感染症流行前よりガイドヘルパーを利用して行っていた外出は、コロナ禍により難しくなったが、流行後も可能な範囲の外出は継続していたと考えられる。
- コロナ禍による食事への影響としては、感染予防上、介助が頼み難くなったこと、外出自粛に伴う筋力・体力の低下、食材の買い出しの問題など様々な要因が関係していると推察される。

○この1年間で、気づいたこと、新たに発見したこと、生活の中で工夫したこと。

- ・通勤や出社だけで運動になっていたが、家(部屋)から出ない生活になって体力が落ちたのに気づいた。でも仕事はテレワークで十分で通勤がない分、体力が消耗されず仕事に集中できるようになった。パソコンが顔の高さで見られるように台や、ワイヤレスキーボードを購入して、働きやすく、良い姿勢でいることを意識するようになった。外に出ると怖さもあるが、車いすの消毒が面倒で外出しなくなった。
- ・宅配サービスを利用していた。
- ・フェイスガードを付けて外出するようになった。
- ・オンライン会議は新しい会議方法の一つになった
- ・仕事以外では外出しないようにした
- ・他者とのコミュニケーションはリモートでも充分に出来る事。勉強会など、会場に行かずに YouTube で配信されたものを見て学習できる事がわかった。
- ・オンライン活用の有効性を体感する一方で、対面の重要性を再認識。
- ・交流会や会議等、オンラインの方が会議や研修会に参加しやすくなってありがたい。
- ・曜日感覚が分からないときがあり、月に2度必ず火曜日に買い物に行く。
- ・ネットでの買い物等を行っている。
- ・コロナ前は自宅で1人でしたが、主人の在宅勤務が増え、自宅で1人で過ごす時間が減ったのでメンタル面で不安が少し軽減しました。
- ・AIスピーカー(アレクサ)の設置
- ・在宅ワークに入ったことによって、自主学習の時間ができた。
- ・公共交通機関を使用しなくなった。
- ・うがい、手洗い、換気など感染予防に関するグッズ の購入
- ・オンラインが活用できることがわかった。交通費や通信費が減った。
- ・直接会えなくてもオンラインでつながっていれば交流はできるとわかった。麻雀等のネットゲームも始め方からやり込みまで色々できる。
- ・私が濃厚接触者になったら、訪問看護と1社のヘルパーに断られた。自分の生活を支えている現実を思い知りました。
- ・当たり前前の普通の生活が何より大切で幸せであることを改めて感じた。県外の友人と会うことや県外に旅行に出かける事が全くなくなってしまったので、「不要不急」の言葉に対して考えました。
- ・玄関にアルコール消毒スプレーを設置した。
- ・外出からの帰宅時に車いすのタイヤやキャスターの消毒に手間がかかる
- ・毎日体温、血圧、血中酸素など計測し、体調の変化に気づきやすくなった
- ・食事の見直し(免疫アップ)
- ・ほぼ毎日のようにしていた外出ができなくなり、家内での生活が中心になったことで、炊事、掃除、整理を怠っていたこと、介助者任せであったことに気づいた。自分で把握し、チェックして依頼するよう生活を見直した。外食が減り家で食事が増えたことで、調理に関心を持つようになった。Webでのレシピを活用するようになり、三食の献立を考える苦労が減った。
- ・衛生管理の出来てないヘルパーへの指導を徹底した。(訪問時に手を洗わないヘルパー等)
- ・対面での会議(打合せ含む)が多かったが、リモート会議になり短時間で済むことが分かった。
- ・不要なものを買わなくなった。考える時間が増えた。

○現在、心配なこと、不安に思うこと。

- ・コロナで外に出るのが怖いと思うし、意欲もなくなってきて気をつけないと引きこもりになりそう。
- ・コロナがいつ終息するか。いつ以前のような生活が戻ってくるのか。
- ・ワクチン接種について。接種時期・副反応等への不安や心配。
- ・各ワクチン接種会場の車椅子利用は？多目的トイレと車椅子駐車場は完備していますか？
- ・健康状態
- ・家族の職場で知人の家族に感染がわかり、PCR検査の結果を待つ間、自宅での家族と呼吸器弱者の私との関わり方に苦心していた。結果は陰性だったが、今後、変異株により感染しやすい状況になれば、職場での感染リスクと共に、家庭で私と接する上で精神的負担が増えることも心配事である。
- ・介助者や自分が感染しているのかがわからないことが不安
- ・現在、回復期病院でのリハビリを受けることが出来ているが、今後コロナ感染が広まれば外来患者の受け入れを拒否されるのではないかと懸念している。
- ・コロナ禍が終息しても、なんの教訓も得ず、従来どおりの政治、行政が続くこと。
- ・体力、筋力低下が不安。
- ・呼吸器疾患があり、新型コロナウイルスに感染し重症化する恐れがある。
- ・感染した場合どうなるのか、介護、医療を含めて。
- ・感染予防する人とならない人が同じ空間に居る時に不安を感じます。
- ・ワクチン接種を終えた上での新型コロナウイルスに対する安全性。
- ・人との関わりが薄れていくこと。
- ・コロナだけでなく災害等の際にも、どうするか？
- ・ワクチン接種後も同じようなマスク着用や会食、県外の旅行について、見えない同調圧力が続かないか心配です。
- ・地元の医療機関、福祉機関がコロナで停止しない事を願うばかりです。
- ・対面式での情報交換が減ったことにより、本来気づけるような表情や感情の変化を見落としているような気がしてならない。ピアサポートは密な空間で得られる情報が多いため、対面式を自粛しなければならない期間がいつまで続くのか心配である。
- ・看護、介護、消防関連職へのワクチン接種の遅れが酷い。
- ・仕事が減って今後の職場が心配（仕事内容の変更、配置換え、減給）
- ・一人暮らしで、コロナにかかった時、在宅待機が難しいので不安。
- ・家族がコロナに感染した場合

○これから地域・福祉・医療・社会に対して期待すること、提案したいこと、挑戦したいこと。

- ・仕事中、通勤、通学、出張(国内、海外)でのヘルパー利用。
- ・テレワークで障害者も働きやすくなったと思うので、もっと重度でも意欲のある人が希望する職種で働けるようになってほしい。
- ・ワクチン接種を早めてほしい。
- ・感染しない、させない努力をしているが一人ではどうしようもないことがある。早くワクチン接種が広がるように願っている。
- ・障害者のデイサービスが無い。出来れば中途障害者と先天性の障害者とデイサービスを分けて欲しい。

- ・居宅介護やデイサービスでもヘルパーがストレッチなど出来るような研修等を実施して欲しい。
- ・様々な手続きのオンライン化
- ・他者から行動や生活様式を制限・管理されるということを世界中の人が経験した。なぜ施設ではなく、地域生活が重要か、家族介護に依存しない自立生活がいかにかに人の尊厳を守るのか、を一般の人が理解しやすい状況ができた。障害者権利条約の完全実現に向け、この経験は大きい。
- ・公共交通移動手段の確保
- ・公共機関の乗り場にスロープ無しでもスムーズに乗降できるようにしてほしい。
- ・公共バリアフリートイレを増やしてほしい。
- ・尊厳死について認める法律を作る
- ・多様性を認めるような社会になってほしいです
- ・人口低下による福祉・医療機関等の人材不足に尽力していただきたい。
- ・障害者の声を真摯に聞いてほしい。
- ・オンラインを活用した障害者の就労(障害者の社会での役割)
- ・コロナ禍で社会が経験した「何に対しても自粛を求められる、家の中に閉じ込められる、買い物にも行けない、仕事にも就けない、学校にも行けない」は、今まで障害者が当たり前のように社会から押しつけられてきたことです。今回を好機ととらえ、誰もが参加できる方法を考えなくてはいけないのではないのでしょうか。
- ・人ごとではなく、自分に置き換えて考えてほしい。
- ・ヘルパーさんがいないと言われませんか不安。
- ・災害発生したときの避難生活での感染症対策
- ・情報不足で多くの人が混乱した。コロナ禍で介護者が感染を避けるために利用者を放棄状態にした事業所があると聞いた。情報不足からくる行為であるなら、今後は正確な情報を発信できる拠点づくりと情報弱者と言われる人へのネットワークの構築が必要。
- ・PCR検査を無料で定期的に行ってほしい
- ・介護職のワクチン接種順位が遅い。早く実施してほしい。
- ・コロナによって生活環境が変わって福祉サービスなどが使いづらくなならないよう、当事者の意見が反映される体制の整備をして欲しい。
- ・在宅医療介護の充実
- ・オンラインで多くの人と繋がれるように期待したい。
- ・一人一人の声に耳を傾けて、より連携した対応が柔軟にできるよう期待したい。

アンケートにご協力くださったみなさま、本当にありがとうございました。

頸髄損傷者の排泄基礎調査ご協力をお願い

全国頸髄損傷者連絡会 宮野 秀樹

この度、頸髄損傷者の生活を支える基本的問題の基礎調査として「排泄に関する基礎調査」を実施することにいたしました。

頸髄損傷者の生活を支える基本的問題として「排泄」の問題があります。ホームヘルパーの摘便、導尿介助はグレーゾーンであるため簡単に頼むことができません。家族に頼らざるを得ない方も多くおられます。それぞれがおかれた環境で排泄介助の内容に偏りが生じています。頸髄損傷者が安心して生活できる環境になっていないのが現状です。

昨年、当会では全国の頸髄損傷者を対象に包括的な生活実態調査である「頸髄損傷者の自立生活と社会参加に関する実態調査 2020」を実施し、その内容を踏まえ、本年 6 月に事例報告、実態調査のデータを基に全国の頸髄損傷者の生活実態を客観的に分析してまとめた実態調査報告「頸損解体新書 2020」を発刊しました。しかし、医療、ケア、生活の改善をするためには、できるかぎり多くのデータを集積して、その結果を世に問い、頸髄損傷者の実態を広く伝える必要があります。

本事業は、「排泄」に特化したアンケート調査を行い、収集した基礎データを分析、そこから見える問題への提言までを報告書としてまとめ、頸髄損傷者およびその家族、支援者が排泄における基本的問題の解決に役立ててもらうため報告書を配布することを目的として実施します。この事業は、公益社団法人 日本理学療法士協会の「障がい者団体助成」事業の助成を受けて実施しております。

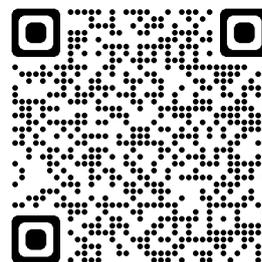
調査の主旨をご理解のうえ、ぜひともアンケートへのご回答をお願いいたします。

下記の URL から頸髄損傷者の排泄基礎調査特設サイトにアクセスできます。
サイト内にアンケート回答フォームの URL が記載されていますので、そちらからご回答ください。

全国頸髄損傷者連絡会・頸髄損傷者の排泄基礎調査特設サイト

<https://k-son.net/haisetsu/>

回答期限:2022年1月9日(日)



アンケートは 15 分ほどで回答できます。

※全国頸髄損傷者連絡会のホームページからも排泄基礎調査特設サイトへのアクセスが可能です。

本調査に関する問い合わせ・連絡先

全国頸髄損傷者連絡会本部 事務局長 宮野秀樹

〒669-1546 兵庫県三田市弥生が丘1丁目1番地の1 フローラ 88 305B 特定非営利活動法人ぽしぶる内

メール: jaqoffice7@gmail.com TEL: 079-555-6022 (対応時間・10時~17時)

支部の活動紹介

香川頸髄損傷者連絡会 長谷川 奨

支部紹介

香川県は、香川脊髄損傷者連合会と香川頸髄損傷者連絡会が統合して一緒に活動しています。現在脊髄損傷者、頸髄損傷者合わせて 17 名で活動しています。会員相互の親睦を図り、より良い社会福祉の向上に努力して積極的に社会生活を営む事を目的としています。本部からの連絡事項を会員に伝達したり、会員の親睦を深める為 1 年の行事としてお花見、勉強会、総会、秋の交流会、バーベキュー、新年会、2 年に 1 度の旅行・他県の脊髄・頸髄損傷者との集いなど年に数回の交流会を開催しています。会員の社会生活における問題などを検討し総会において必要と認められた場合、各機関へ要望書を提出したり、各種障がい者の行事にも参加しています。重い障がいや生活面などで悩んでいる方にピアサポート活動など継続しながらより生活しやすい環境を目指しています。

新型コロナウイルスの影響で会の行事もこの 1 年半すべて中止になりました。コロナが流行り出してからには会員さん達が対面で会うのは難しいので、zoom を使ったりリモートでの交流会をしようと企画した時もありました。その時は会員の皆様もなかなかリモートの環境が整っていない人や使い方が分からない人もいたり、参加人数も少なかったので中止になりました。

役員の間では zoom を利用して役員会などをしていきますが、会員の皆さんにまではまだ広がっていないので、コロナ明けで集まれるようになった時にはリモートの使い方を共有して、今後リモートでの交流会など開催出来るようになれば交流の幅が広がって良いと思います。

新年会

コロナ前には『ボートレースまるがめ』で新年会を開催していました。ここには特別観覧席があり、

ラウンジやカラオケなどを完備していて、外に出れば石張りのテラスやウッドデッキもあり、環境がとても素晴らしいので新年会などで数回使っています。



会員と介助者を含め 15~20 名ほど集まって食事をしながらみんなで近況報告や雑談をして、食後は舟券を買ってボートレースをします。舟券を買ったことがない人が多かったので競艇場の方に買い方を教えてもらい、いざ勝負!!初めてのボートレースにちょっとドキドキです。数レースしましたが皆さん楽しめたようで良かったです。私は毎回全てハズレでした。当たった会員さん達がうらやましいです。

コロナが収まってまたここで新年会をするのが楽しみです。



旅行

2 年に一度旅行を計画しており、今まで東京都、沖縄県、兵庫県、京都府、愛媛県、岡山県...に行き、行った先の脊損・頸損の方々と交流会をしています。普段会えない人達との交流はとても貴重な時間で勉強になります。

勉強会

脊損・頸損の方に講演に来ていただき、普段の生活状況、工夫してる所、旅行に行く際の準備、介助犬について...お話し頂いています。

学生さんに頸髄損傷者はどういう生活をしているか、ヘルパーさんをいつ使っているかなどを発表し、その後一緒に食事したり、レクリエーションなどして交流を深める企画もありました。

車椅子のメーカーさんに来てもらい、色々な車椅子や商品などを紹介してもらった企画もしていましたが、新型コロナウイルスの影響で中止になりました。会員の皆さんが知りたい情報を伝えていける勉強会を目指しています。

私個人としては、2020 年 1 月に新しい電動車椅子を新調しました。メーカーはペルモビルで F5VS というスタンディング機能付きの電動車椅子です。お値段はちょっとお高めでした！今回初めて前輪駆動の車椅子でしたが、とても乗りやすく運転しやすかったです。車椅子の力を借りてではありませんが、自分で立てると言うのは嬉しいですね。20 年前の目線が蘇ります。人と話す時も今まで上向きで話してたのが、同じ目線や下向いて話してるのがまだ少し違和感があります。起立性低血圧なのでなかなか長時間は立ったままになれず、立ってすぐ血圧が下がる時もあれば 30 分以上我慢できる時もあります。車椅子でほぼ垂直まで立つことは出来ませんが、まだそこまで立ったことはありません。血圧というより垂直まで立つと感覚的に前や横に転びそうで怖いんです。もちろん垂直まで立っても立ったまま走っても車椅子は全然問題ないのですが、身体がもう立った感覚を忘れてるので恐怖感があります。これは何回も挑戦してれば慣れてくると思うので、私の

今の目標は垂直まで立ったまま車椅子で走ることで



重さは約 200kg あります。車についてあるリフトでは荷重オーバーなので、新しく耐荷重 350kg まで大丈夫なリフトに交換しました。車種はアルファードですが、前乗っていた車椅子より今の車椅子の幅が広いので、乗り込むときに結構ギリギリなので大変です。後付けのリフトなので車内に鉄板敷いたりしてるので、高さも開口部ではギリギリです。車内に入れば高さは余裕あるので問題ないです。コロナで今はほとんど乗ってません。たまには乗って遠出でもしてみたいです。



全国で新型コロナウイルス感染者が増え、香川県でもまん延防止等重点措置が適用された時もありました。ワクチン接種も進みコロナが収まったら、会員の皆さんでまた交流会や旅行などを開催したいと思っています。

横隔膜ペースメーカー・ミニ勉強会 報告

～医療技術の向上による新たな施術法～

兵庫頸髄損傷者連絡会 米田 進一

9月18日(土)、オンラインを使用した「横隔膜ペースメーカー・ミニ勉強会」を行いました。

2008年に「全国総会・大阪大会」が開催され、ゲストで来日されたカナダの方が、既に当時の名称「横隔膜ペーシング」という施術をされていました。この時、カナダの方が呼吸器不要な生活を送っていると聞いて衝撃を受けました。しかし、当時、日本国内では保険適用外であり、事例もほぼ無かったので、気にはなりましたが、この療法に関する情報収集には真剣に取り組みませんでした。

近年、以前とは違い、国内でも治療の成功例が報告され、保険適用も認められてきました。当時受けた衝撃を思い出し、今回の勉強会に至りました。

本来、事故や疾患により神経を圧迫する事で、呼吸筋や横隔膜に脳からの伝達指示が流れず、自発的な呼吸が困難になり、最悪の場合は人工呼吸器を装置せざるを得ません。この横隔膜ペースメーカーは、人工呼吸器使用者の腹部に腹腔鏡下手術で電極を埋め込むことで、電気刺激で横隔膜を動かし、人工呼吸器による呼吸補助を不要とする事が出来る画期的な方法のようです。

今回、この「横隔膜ペースメーカー」の輸入販売されている国内正規代理店の「USCI ジャパン株式会社」の方に説明して頂きました。製品の正式名は横隔膜神経電気刺激装置「NeuRx(ニューアールエックス)横隔膜ペーシングシステム」。スーパーマンで有名な俳優のクリストファー・リーブも取り入れた治療法です。現在、米国での使用症例数は約2000例で、大きな合併症の報告もなく、受傷3日から25年と慢性期の方でも横隔膜が電気刺激に反応すれば使えるようです。

国内での脊髄損傷(SCI)患者への埋め込み事例は、直近3年間では年間100例ほどあり、現在も記録更新中。日本国内でも2019年9月に保険適用が開始されました。2020年12月には、東京女子医科

大学東医療センターで、先天性中枢性低換気症候群(CCHS)患者への横隔膜ペーシング植込み手術が行われました。2021年3月には、総合せき損センターでもSCI患者への横隔膜ペースメーカー植込み手術が行われ、呼吸管理が実施されています。

C2/3損傷レベルのSCIの25歳男性の事例によると、術後数日後に横隔膜ペースメーカーの使用が開始できたそうです。30分間のペーシング、60分間の休憩を1セットとして、2ヶ月後には90分間ペーシング、さらに2ヶ月後には、夜間ペーシングと患者の状態を確認しながら時間を延ばしたようです。

勉強会に出て感じた横隔膜ペースメーカーのメリットは、腹腔鏡手術の手術時間は2,3時間で、体への負担が少ない事。吸引器や呼吸器の外部バッテリー等の手荷物が減り、外出がし易くなる事。何よりも介助者の負担が減る事でした。デメリットは電池交換を3日に1回と頻繁にする必要がある事。トラブルが発生した場合は、やはり人工呼吸器が必要だという事だと思います。

現在、横隔膜ペーシング植込み手術が行える拠点は東京と福岡の2つしかありませんが、今後は各地に拠点が出来る事を願っています。新幹線が通っている都市に拠点が増えると、移動も大変では無くなり、手術を受けようとする人が増えるのではないのでしょうか。

私のように自発呼吸がなく、24時間人工呼吸器に依存している者は、万が一呼吸器が外れた場合、自力では付け直せないで、アラーム音が聞こえる場所で誰かに居てもらう必要があります。横隔膜ペースメーカーに移行できれば、一人で過ごす時間が増え、夜間の人手不足問題の解消にも繋がる事が期待できます。当然、自立生活の実現は現実的なものとなり、生活の質は間違いなく向上すると思います。

今後の継続的な情報提供と国内でのサポート体制の拡充を期待したいと思います。

頸損解体新書 2020 完成報告会のご報告

全国頸髓損傷者連絡会 関根 彩香

2021年10月24日(日)に「頸損解体新書 2020 ~自分らしくあるために~」完成報告会を実施しましたので報告いたします。

コロナ禍ということもありリアルではなく、残念ながら Zoom を使用したオンライン開催となりましたが、遠方の方にも気軽に参加いただけるオンラインの良さを活かした報告会になったのではないかと感じています。

1部では、香川頸髓損傷者連絡会会長、社会福祉法人ラーフ理事長の毛利公一氏より「自分らしくあるために~視線が変わると世界が変わる~」と題して基調講演をいただきました。コロナ禍でオンライン環境が整い、様々な価値観が変わったことは頸損者にとって良い面もあると話されています。毛利氏の働く覚悟(きっかけ)は、日中ベッド上でゲームをしている自分が嫌になったことと近隣の介護事業所の倒産により介護難民が話題になったことだそうです。当初、求人に応募したがすべて断られ、経営者になろうと決意され、現在は社会福祉法人の経営や地域の特産品をつくったり、美容×福祉でファッションショーをしたり、モノづくりを通して世界に発信するなど多様な事業を展開されています。

成功するための3つのポイントとして、①やるかやらないかの判断で「やる」を選ぶ、②「〇〇があればできる!」の発想、③1人でやらない=未来を語る仲間を作ることを実践されています。最後に、「大事なのはあなたの価値(強み)です。価値が分からない人は、まずやってみましょう!そして仲間を作りましょう!」等のメッセージが送られました。毛利氏の公演は、皆さんに本気で生きているかを問いかけ、前向きに進む力を与えてくれたことと思います。

その後、調査から見てきた課題と提言がありました。10年前調査からの特徴的な変化は、制度が整ってきたことによりヘルパーとの外出が増加、就労者が4割に増加、一人暮らしが増えた影響か賃貸の

増加などが挙げられました。

2部では、テーマ別にオンライン上の部屋に分かれて、参加者が好きな部屋へ自由に行き来してディスカッションするブレイクアウトルームという初の試みを実施しました。テーマは、①女性の視点からみた就労、②一人暮らし、③結婚・妊活・子育て、④高齢介護、⑤交通・まちづくり・バリアフリー、⑥災害と支援機器です。それでは各テーマでのディスカッション内容を簡単ではありますが共有します。

①女性の視点からみた就労には、12名が参加しました。働いて知った良いところとして、自分で働いたお金で好きなことができるってやっぱり良いよね!という話からはじまり、出張や外泊はどうしてる?という質問に、当初は慣れたヘルパーに付いて来てもらっていたけれど今は現地調達という方がいて、その方法を共有していただきました。まだまだ女性の就労には課題が多く、就労者数も多いとは言えません。各々が単独で持っている情報を集約していつでも情報が得られる場所が欲しい!という声が多く、女性のネットワークが広がるように今後様々な取り組みを実施していきたいと思っています。

②一人暮らしには、頸損者10名を含む12名が参加しました。一人暮らしをしている人が多く、家探しに苦労したこととして、ドア幅や家主に断られた経験があること、また介助の支給時間数が十分でなく、行政との交渉が難航しているという話題がありました。また今回は愛媛県在住の方が多く、地方では都心に比べ介助者の確保が困難であることや近隣の人を確保できないと継続が難しいなど地域格差の問題も明らかとなりました。参加者全員で情報共有の必要性を実感し、SNSでつながり、これから継続して情報交換していこうという話になっています。

③結婚・妊活・子育てには5名が参加しました。泌尿器科を紹介してもらい妊活したという方が数名おり、県や市の助成があること、今は男性側にも助成制度があること、保険適用の話も出てきているの

で今後変わってくるかもしれないといった話がありました。また子育てについては、手で揺らして子どもが寝た時は感動した！とか、子どもは嫌なことがあると車いすがいけない場所に隠れたりするといった悩みも共有されました。海外のセックスボランティアの話題も出て、頤損連で取り上げてみてはどうかと感じるという意見もありました。

④高齢介護には7名が参加しました。65歳になり介護保険に移行するにあたり、介護保険優先が大きな問題となっていることが話題の中心となりました。重度訪問介護と介護保険を併用する場合に地域やケアマネージャーによって、各制度の利用の仕方が違うことで情報交換ができない場合があることや、制度ごとに使える内容や自己負担も違うため混乱が生じていること、ケアマネの知識や力量次第で生活が変わってしまう、知らないうちに不利な状況へ陥っている実態もあるなどの課題が明らかとなりました。NASVA 介護料など、介護保険に移行することで今まで受けられていたことが利用できなくなることもあるので、それがどのくらいあるのかなど生活への影響性を確認しながら、利用できる・できない制度を整理していくことが重要な課題です。さらに65歳以上で新たに受傷する人も多いので、こうした方々への関わりやピアサポートも考えていきたいという話をしました。

⑤交通・まちづくり・バリアフリーには8名が参加しました。ジャパントクシーを利用した方からは、横から乗り込むので細い道だと乗り込めない、車内が狭く介助者が1名しか乗れない、当日にならないと予約ができないのをどうにかしてほしいという意見がありました。また大阪では、スロープなしでも電車で乗降できる駅があり、隙間にゴムのようなものがあるが、(前輪が)引っかかったり、振動もあり怖い時があるという話がありました。設備さえ良くなれば駅に人は必要ないか？という質問に対しては、バスも運転士が対応しているので、電車も運転士や車掌が対応してくれれば良いのではないかといった意見があった一方で、そのためには法律等を変えないといけないので難しいと言われた経験があるという情報が共有されました。

⑥災害と支援機器には11名が参加しました。東日本大震災での被災経験が語られ、困ったこととして「停電」「ライフラインの停止」「ガソリン不足」「避難所」などが上げられました。ガソリン不足によりヘルパーが移動できず半月間ヘルパーがいなくて困ったという方や、重度障害者が逃げられる避難所がなく家にいるしかなかった、避難できないと思っているので避難先の把握もしていないという方もおられました。一方で対策を講じている方もいて、震災を機に介護リフトを停電時でも使えるバッテリー稼働式に変えた方や呼吸器の予備バッテリーを購入した方、防災訓練に積極的に参加している方もいました。防災訓練に参加してから近隣住民が関心を持ってくれてどのような支援が必要かを一緒に考えてくれるようになったという意見もあり、面倒くさいけど参加して欲しい、「覚悟」を決める前に生き延びる方法を考えて欲しい、もっと自分の存在をアピールしよう！という声も上がりました。

どこのテーマも時間が足りないくらい盛り上がったことと思います。これらの各部屋で話した内容を最後に全体で共有して報告会は終了となりました。

参加者アンケートは、計25名の方からご回答をいただきました。「よかった」15名、「とてもよかった」10名と好評をいただくことができ、ほっとしております。学生や専門職の方にも参加いただき、多くのご意見ご感想をいただきました。毛利さんの講演を聞いて、「人間として生まれたからには、障害があろうとなかろうと一生懸命生きなければと熱い思いが伝わりました。私も頑張らなければと思いました。」という感想もいただきました。また、ブレイクアウトルームに関してはもっと話したかった、また参加したいなど多くのお声をいただきました。仲間と情報交換をしたり悩みを相談したり、新たなつながりが生まれるのは改めてとても良いことだなと感じました。今回で終わりではなく、今後も継続していくことで、さらにつながりが広く太く強くなっていけるように活動していきたいと思えます。

最後になりますが、完成報告会にご参加いただきました皆さま、どうもありがとうございました。

頸損解体新書 2020

～自分らしくあるために～

前回の『頸損解体新書 2010』から10年が経ち、改めて今の頸髄損傷者の自立生活と社会参加の現状とその障壁を明らかにし、必要な社会的支援のあり方を検討するために、一般社団法人日本リハビリテーション工学協会と協働で「頸髄損傷者の自立生活と社会参加に関する実態調査 2020」(※1)を実施しました。この度、その結果を「頸損解体新書 2020 ～自分らしくあるために～」としてまとめました。



【目次】

- 第1部 みんなちがって、みんないい
 - 1-1章 希望をカタチに、次へつなぐ(事例紹介)
 - 1-2章 未来へ
 - 1-3章 頸髄損傷者損者を取り巻く課題
- 第2部 頸髄損傷者の自立生活と社会参加に関する実態調査報告
 - 2-1章 全国頸髄損傷者実態調査の方法
 - 2-2章 地域格差
 - 2-3章 高齢障害者
 - 2-4章 外出の壁
 - 2-5章 女性頸損者が抱える課題
 - 2-6章 就労
 - 2-7章 福祉用具/機器・ICT・バリアフリー
 - 2-8章 住環境
 - 2-9章 災害
 - 2-10章 健康
 - 2-11章 ライフスタイル
 - 2-12章 制度・サービス
 - 2-13章 重度頸髄損傷者の現状と課題
 - 2-14章 在宅以外で生活する頸髄損傷者
- 第3部 頸髄損傷者の自立生活と社会参加の促進に向けた提言
 - 3-1章 頸髄損傷者を取り巻く社会状況
 - 3-2章 頸髄損傷者に残された社会的条件整備の課題
 - 3-3章 誰もが自立できる社会を目指して
- 第4部 資料編

(A4版 全209ページ)

現在この「頸損解体新書 2020」は両団体会員向けに配布をしており、一般の方への頒布は次年度以降を予定しています。早期にご希望される方は、全国頸髄損傷者連絡会本部までお問い合わせください。

【問い合わせ・連絡先】 全国頸髄損傷者連絡会本部

〒669-1546 兵庫県三田市弥生が丘1丁目1番地の1 フローラ 88 305B
 特定非営利活動法人ぼしぶる内

メール: jaqoffice7@gmail.com TEL: 079-555-6022 (10時～17時)

URL: <https://k-son.net/research2020/>



※1 本調査は公益財団法人三菱財団「2019年度社会福祉事業・研究助成」の助成を受けて実施しました。

第35回リハ工学カンファレンス in 北九州報告

兵庫頸髄損傷者連絡会 土田 浩敬

1. はじめに

みなさんこんにちは。昨年コロナウイルスの影響で、第35回リハ工学カンファレンス in 北九州が中止となりました。中止を受けて今年は、オンラインを利用しての開催になりました。新しい試みとしてオンラインで開催された第35回リハ工学カンファレンス in 北九州の報告をさせていただきます。

2. 概要

日時：2021年9月25日（土）から26日（日）

開催：オンライン開催

大会長：繁成剛（長野大学 社会福祉学部）

実行委員長：中村詩子

（北九州市立総合療育センター）

主催：（一社）日本リハビリテーション工学協会

テーマ：リハ工学で支える新しいライフスタイル
一般演題発表、および特別企画など

特別企画

①大会長講演：

繁成剛（長野大学／リハ工学協会顧問）

〔リハ工学のこれまでとこれから〕

②特別企画 〔国際セッション〕

③特別企画 〔オンライン懇親会〕

④特別企画 〔頸損解体新書完成イベント〕

市民公開講座・無料企画

①特別講演：

熊谷晋一郎（東京大学先端科学技術研究センター）

〔当事者と生み出す価値、知識、技術-当事者研究の視点から-〕

②特別企画 〔福祉機器コンテスト表彰式〕

3. オンライン開催となって

コロナウイルス蔓延防止対策として、今年の第35回リハ工学カンファレンス in 北九州は、オンライン

での開催となりました。頸髄損傷という障害がある私は、オンライン開催となったことで「移動」する必要がなくなりました。車椅子利用者にとって「移動」というのは、少なからずバリアが付きまとうのです。そんな「移動」の必要がない、オンライン開催になったことで、私たちのような障害者にとっては、参加し易くなったという、1つのメリットが生まれました。

午前中、車椅子に乗り移り、パソコンを開きます。するとそこにはリハ工学カンファレンスの会場があるのです。今回は「zoom」を主に利用しての開催でした、ルームA、ルームBと二つに分かれていて、参加者は、どちらのルームも自由に出入りが出来ます。自分で聞きたい演題を選んで、どちらかのルームに入ります。車椅子利用者の私にとって興味のある演題は、やはり車椅子に関わるものです。2日目の演題で、横浜市総合リハビリテーションセンターの児玉真一氏発表の「手動車いすの航空機輸送時の損傷を予防する用具開発」はとても興味深かったです。飛行機を利用する際に、手動車椅子や電動車椅子は貨物用コンテナで運ばれます。荷物扱いになるのですが、輸送中によく破損してしまうのです。目的地に着いた頃には、アームやフットサポートが曲がっていたり、コントローラが壊れていたりする事例をよく耳にします。そんな損傷を防いでくれる用具の必要性は、かなりあるのではないのでしょうか。

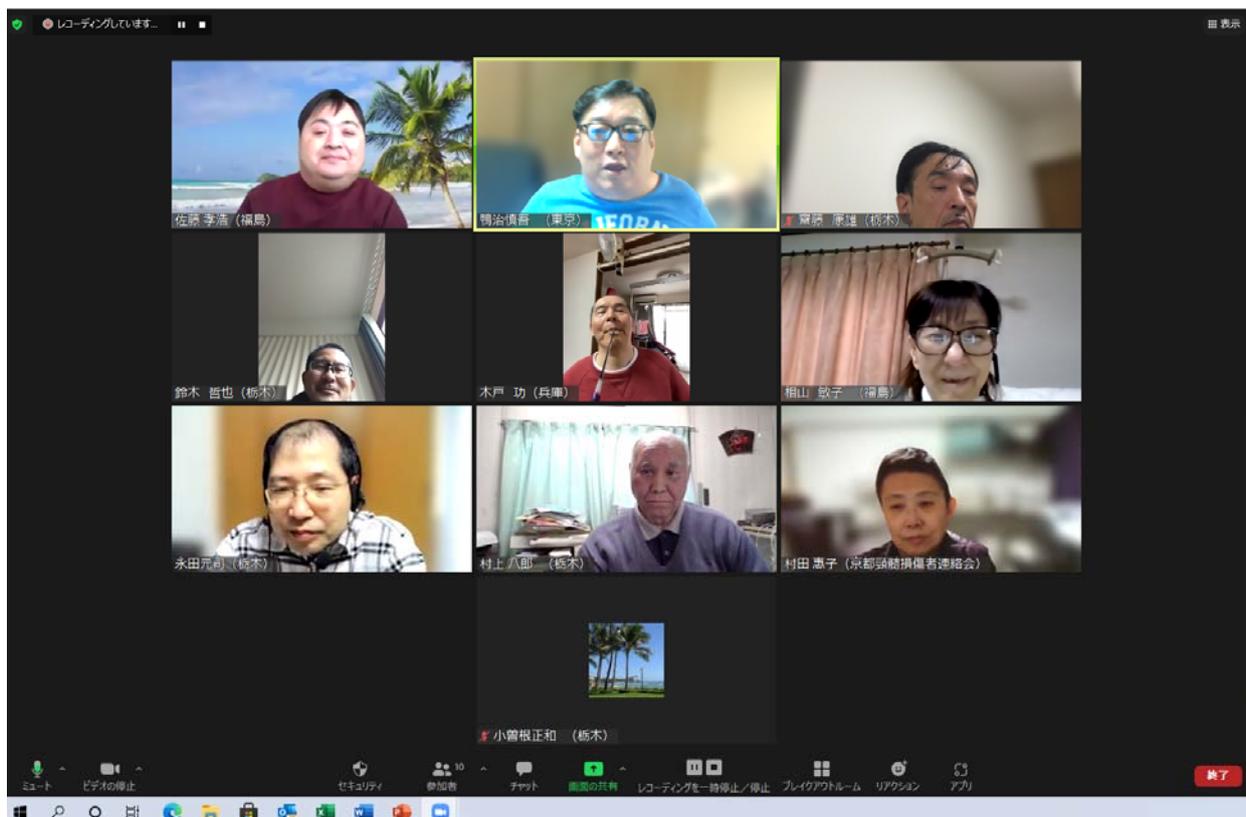
4. まとめ

2日間、オンラインで参加しましたが、ずっと参加し続けるのもしんどかったのが、正直なところでした。

会場とオンライン、ハイブリッド方式での参加が今後広まれば、その人の生活スタイルに合わせて、参加者も増えるのではないかと感じた、第35回リハ工学カンファレンス in 北九州でした。

2021年 4 都県合同交流会 @オンライン 報告

主催支部 栃木頸髄損傷者連絡会 会長 永田 元司



10月31日に4都県合同交流会を開催しました。今年もまだ新型コロナウイルスの感染状況が改善せず、昨年に引き続きZoomでのオンライン開催となりました。この形式での開催は2回目ということもあり、また普段からZoomをよく使っていて慣れている方も多く、昨年よりもリラックスした雰囲気で行えました。オンライン開催の良さを生かして4都県以外の方にも参加していただき、京都や兵庫の方も含め合計13人の参加者がありました。

各支部の活動状況や自己紹介の後、いろいろな話題での会話となりました。移動支援や介護保険など福祉サービスについての話もありましたが、中でも旅行に関する話が一番盛り上がりました。コロナ禍で外出の自粛が求められていた期間が長かったせいか、旅行への関心が高まっていたのかもしれませんが、「障がい者の旅行を考える会」の佐藤さんから南イタリアやハワイへの旅の体験談を聞き、街の様子や移動のしやすさ、飛行機に電動車椅子で搭乗する際のバッテリーの扱い、フライト時間、ツアーの費用などいろいろ教えていただきました。

話題が途切れたときのために、あらかじめいくつかテーマを用意していたのですが、それらを出すことなく終了の時間となってしまいました。オンラインの総会や代表者会議で顔を合わせたことがある程度の方、今回初めてお会いした方などもいましたが、気楽な話題で話せたので、より親しくなれた気がしました。

来年には新型コロナの感染が落ち着いて、直接集まって交流できるようになっていけばいいと思います。ただ移動の負担がなく、自宅から参加できるオンラインの良さも体験できましたので、社会情勢や参加者の事情などを考慮しながら開催方法を検討して、今後も交流を続けていきたいと思っています。

第16回 四国頸損の集い2021 報告

愛媛頸髄損傷者連絡会 事務局 鈴木 太

1. はじめに

2021年11月7日(日)、Zoomを活用して第16回四国頸損の集い2021を開催しました。例年は会場を設定し、四国全域から参加者が集まり、昼ご飯を食べながら交流を深めるのですが、昨年からコロナウイルスの影響が出ていますので、昨年はボッチャ体験を実施しました。しかし、県をまたいだ移動にまだ躊躇される会員も多いため、今年はオンライン交流会を実施しました。

2. 概要

第16回四国頸損の集い2021

日時 2021年11月7日(日) 13時～15時

場所 Zoom ミーティング

3. 初のオンライン開催

準備にあたり、全国頸髄損傷者連絡会で活用しているZoom(オンライン会議システム)をお借りしてミーティングを設置、その情報を愛媛・香川・徳島の各県の代表者と事務局へお伝えしました。事前に受付を実施とも考えましたが、当日自由に入ってもらおうということで、四国内ではミーティング情報のみの共有を行いました。四国外からの参加は事前申し込みを行い、東京1名、大阪1名、兵庫2名の申し込みがありました。当日四国内からは愛媛6名、香川1名、徳島1名の参加があり、全体で12名での交流会になりました。

4. 交流会スタート

参加のみなさんがパソコン操作に慣れていたので、13時からトラブルもなく交流会を開始しました。途中参加の方も数名おられましたが、まずは自己紹介を行いました。頸損連絡会が企画する報告会やセミナーで知った顔ではあるかもしれませんが、お話しするのは初めてという方もいらっしゃいましたので、地域順に軽くお話いただきました。

5. フリートーク

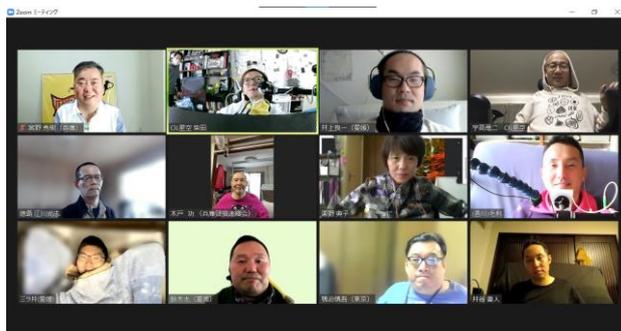
いつもの四国頸損の集い通りなのですが、特にテーマは設けず、持ち上がっている問題やみなさんに聞きたいことを上げてもらい、参加者から回答いただく形で進めました。

あがった内容としては、

- ・ある方が相談を受けた重度障害者の高校進学問題について
- ・コロナウイルスの影響による支部内での頸髄損傷者の交流について
- ・女性頸髄損傷者の視点に立った活動についてなどがあがる中で、
- ・来年度開催の全国頸髄損傷者連絡会 全国総会 四国大会について

ということで、四国頸損メンバーへの協力依頼を行いました。来年2022年の全国頸髄損傷者連絡会・全国総会は全国脊髄損傷者連合会との合同開催が決定しております。愛媛では2012年総会を行い、2017年には四国大会として香川で四国のメンバーで開催しました。2012年は会長交代の後、愛媛の新メンバーで挑み、2017年は数回の四国メンバー実行委員会で、企画を検討したあと担当や役割を分担し当日を終えました。今回も四国頸損の集いメンバーを中心に、全国脊髄損傷者連合会との連携を行い、四国らしさを出していきたいと思っております。

次回の全国総会はオンライン開催ですので、全国のみなさん気軽に自宅からご参加ください。



参加者とスクリーンショットで記念撮影

団体紹介

障害連（障害者の生活保障を要求する連絡会議）

～ 障害の重い人の独立と自由、地域生活を求めて！制度の谷間のないサービスを！ ～

事務局責任者 太田 修平

発足から50年近く経ちます。1976年、「国民春闘」という労働組合の運動の中で産声をあげました。福祉年金月額が2万円そこそこだった当時、自立して生活できることを求め、福祉年金の大幅アップを要求してきました。15年後、障害基礎年金の創設という形で実現しました。

障害連は全国交通アクセス大行動を中心的に担い、バリアフリー法を制定させることができました。介助問題、住宅問題にも取り組んできました。もちろん優生保護法問題にも力を入れてきました。最近では難病の人たちに対しても社会モデルの考え方にたって障害と捉え、必要なサービスを提供するよう訴えています。

10月9日に行った障害連シンポジウムでは、谷間の住人～日本の谷底で社会モデルを叫ぶ～を行いました。全国頸髄損傷者連絡会は、障害連ができた時から中心メンバーです。これからも障害の重い人たちの権利と生活保障をめざし取り組んでいきたいと考えています。



〒101-0654 東京都千代田区神田錦町 3-11-8 武蔵野ビル 5階

電話 03(5282)0016

e-mail shogairen@infoseek.jp

代表 尾上裕亮

事務局責任者 太田修平

「BeHAND（ビーハンド）」音声認識 AI 環境制御システム

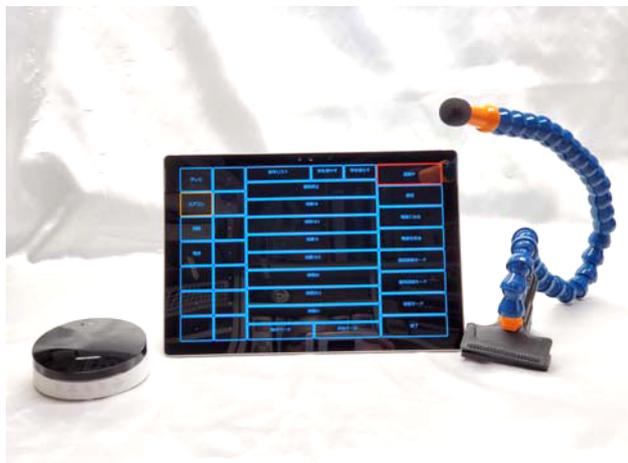
～ 介助負担の軽減と、自立支援に。 ～

リフォームレシピ代表 片岡 彰彦

『上肢に不自由がある方に』

頸髄損傷や筋ジストロフィー、ALS 等により上肢に不自由があって、ベッド周辺の家電操作やベッド操作でお困りの方へ。

【ビーハンドシステム一式】



左から「赤外線学習装置」
中央「ビーハンド本体」
右側「フレキシブルマイク」

ビーハンドは、頸髄損傷や筋ジス、ALS 等により上肢に不自由がある方向けに開発した音声認識 AI 環境制御システムです。

電話の受発信やベッド周辺の家電操作（テレビ・レコーダー・エアコン・照明他）や電動ベッドが声で操作できます。

今以上にご本人は生活の一部を自立でき、ご家族の介助負担も軽減できます。ご利用者様の感想として、

- ・好きな時に映画が見られる。
 - ・介助者が一人増えたみたい。
 - ・エアコンが自分で変えられるのがいい。
 - ・介助の心配が少なくなり寝られる様になった。
 - ・ストレスが減った。
- 等々。

【機能と特徴】

《柔軟な音声認識》

使う方の発話に合わせた言葉の設定が可能です。一般的な音声認識機器のように決められた言葉では無く、自由に話しやすい言葉で操作できます。

《電動ベッドの操作も可能に》

一般家電品はもちろん、電動ベッドなどリモコンが無い製品にも対応できます。（オプション）

《パソコンに詳しくない介助者も簡単準備》

使う準備は、電源を入れてマイクを口元に向けるだけです。

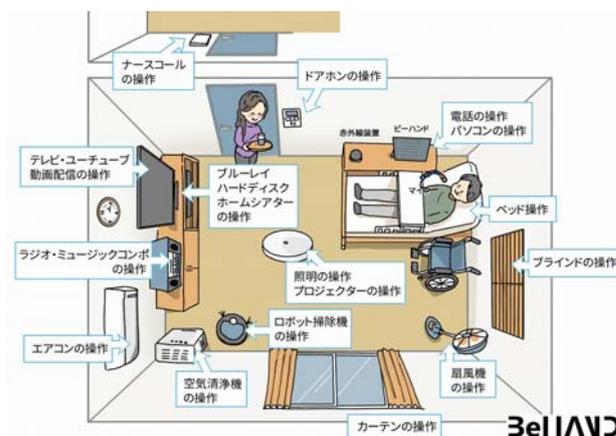
《設置設定の心配はいりません》

設置から設定まで全てスタッフがさせていただきます。

《給付制度が利用できます》

市区町村の助成金制度「日常生活用具給付」が利用できます。品目名は、「情報・通信支援用具」、「パソコンのソフトウェア」もしくは「環境制御装置」等です。詳しくは役所の福祉関連の窓口にご相談ください。

【設置事例】



赤外線リモコンを使った家電品として、一般的なテレビ・レコーダー・照明・エアコンに加え、プロジェクター・ラジオ・ミュージックコンポ・ホームシ

アター・空気清浄機・ロボット掃除機・扇風機等が制御できます。

またリモコンの無いカーテン・ブラインド・電動ベッド・ドアホン・ナースコール等は、オプション（オリジナル加工）にて制御が出来るようになります。



(設置例)

【操作方法】

ビーハンドを呼出して操作を命令します。この操作方はスマートスピーカーによく似ています。

《基本の流れ》

- 1、機能パネルの家電を選びます。
- 2、コマンドパネルのボタンを命令します。
- 3、呼び出して5秒以内に命令します。

例：テレビの電源を入れる。

発話：ビーハンド！

ビー：はい。(返事)

発話：テレビ！

ビー：テレビ。(復唱)

発話：電源！

ビー：電源。(復唱)

《認識モードの切り替え》

通常認識モードと連続認識モードがあり、連続認識モードに切り替えると、常時呼び出した状態になり、連続して命令が出来ます。

例：認識モードを切り替える。

発話：ビーハンド！

ビー：はい。(返事)

発話：連続モード！

ビー：連続認識モードへ移行します。(復唱)

これで、登録したリモコンボタンを連続して命令が出来ます。操作が終わりましたら、通常認識モードに戻します。(ホームページに説明動画有り)

【パソコンモード (オプション)】

パソコンの操作が言葉で行えます。

《マウスカーソルの操作》

カーソルの移動、クリック、ダブルクリック等。

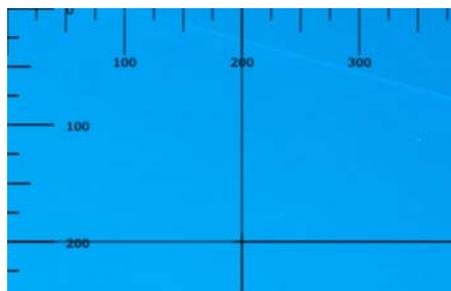
《キーボードを音声で操作》

エスケープ・エンター等の操作や、

キーボードの文字が入力できます。

《音声入力で文字を入力》

グーグルのウェブスピーチプログラムを導入し、発話した言葉を文章に変換し入力します。



(画面にある目盛りを読みカーソルを移動させます)

【アフターサポート】

アフターサポートは24時間365日。

サポート作業は、リモート（遠隔操作）でさせていただきます。

【販売価格とパソコン選び】

ビーハンドソフトウェア：258,500円(税込み)

専用フレキシブルマイク：23,100円(税込み)

専用赤外線学習装置：22,000円(税込み)

(設定費用は価格に含む。オプション・交通費別途)

環境は、インターネットルーター（ハブ）とWindows10パソコン（64ビット）が必要です。

パソコン選びのご相談は対応させていただきます。

【お問合せ】

リフォームレシピ代表 片岡彰彦

住所：岡山市中区高島二丁目5-8-2

連絡先：090-9467-5660

メール：kataoka@reform-recipe.com

ホームページ：<https://behand-rr.jimdofree.com/>

または「ビーハンド」で検索してください。

ボイスキャンのサポートも行っております。



お役立ち! ?

全国頰損傷者連絡会 鴨治 慎吾

この1年、外出を控えた方も多かったはず。今回はこの冬、自宅内での生活に役に立ちそうなものをピックアップしてみました。もし、良い情報などありましたら、編集部にお知らせください。

◎【+Style ORIGINAL】スマート加湿器(卓上)



スマホや音声で操作
電源や調光・調色設定も簡単

スマホアプリで操作

- 電源ON/OFF
- ミスト設定
- 調光・調色設定
- スケジュール設定

専用アプリ「+Style」
※例：平日朝9時にONの繰り返し設定

声で操作

OK Google、加湿器を消して

アレクサ、おはよう (部屋の+Style機器をまとめてON)

Google アシスタント
Amazon Alexa (アレクサ) 対応
※別売の+Style製品、スマートモード設定が必要

スマート(AI)スピーカー

型番 PS-ARO-W01 ¥4,980 (税込)

- ・サイズ 約 136×136×149mm
- ・重量 (1個) 約 410g (ACアダプタ除く)
- ・加湿方式 超音波・水タンク容量 400ml
- ・使用時間 10-70ml/h・加湿範囲 15-20平米
- ・アロマ使用○・安全装置○

※ご利用にはWi-Fi (無線LAN) 環境が必要です。

販売元：BB ソフトサービス株式会社
TEL：0120-956-952 (通話料無料)
product@m.plusstyle.jp
営業時間：10：00～19：00 (特定休業日除く)

◎どこでも床暖「USB あったかスリッパ」



型番 TK-WSP-2
¥3,980 (税込)
・サイズ 125×305×110mm
・重量 両足 322g

(サンコー株式会社)

- ・使用時間 約3時間 (3000mAh) ※モバイルバッテリー (別売) の容量に依存します。
- ・内容品 スリッパ本体、スイッチ付きUSBケーブル×2本 (約13cm)、中間ケーブル×2本 (約180cm)
- ・最大温度 高：約51度、中：約46度、低：約42度 スリッパ内部の温度になります。

◎目線の高さでメイクができる 「LED ライト付き伸びる三面鏡」



型番 C-HTT21W
¥3,480 (税込)
・サイズ 使用時：幅 350×高さ 315～400×奥行 180mm
・重量 750g

- ・鏡サイズ 中央：135×210mm 左右：78×234mm
- ・内容品 本体、USBケーブル(95cm)、10倍拡大
- ・電源 USB(5V)または単三電池4本 (別売)
- ・拡大鏡 2倍、3倍 ・LEDライト数 68個

販売元：サンコー株式会社
(サンコーレアモノショップ)
TEL：03-3526-4328
shop@thanko.jp

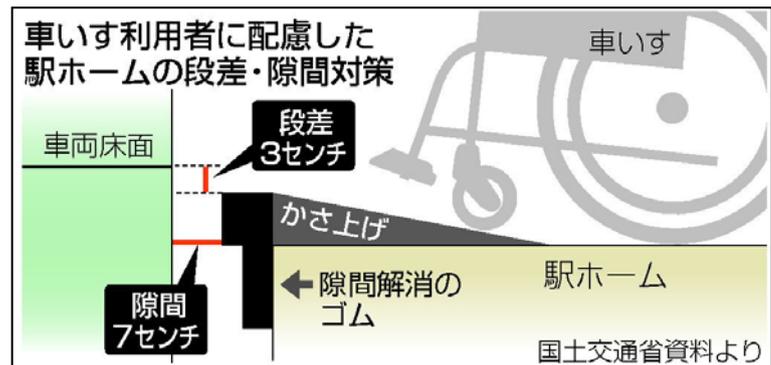
報道・情報ピックアップ

JJJI.COM 2021年08月22日07時19分

介助無しで乗車、ホームに工夫 目安受け鉄道各社対策〔パラリンピック〕

車いすでも駅員の介助無しに1人で電車に乗り、好きなところで途中下車したい。当たり前のニーズに応えるため、鉄道各社は車両とホームの間の段差や隙間を埋め、車いす単独の乗降を可能にする取り組みを進めている。東京パラリンピックを見据え、国土交通省が段差・隙間の目安値を設けたことで整備が加速。センチ単位の工夫が障害者の自由な移動を後押しする。

車いす利用者が1人で鉄道を乗り降りするには、ホームの乗車口付近をスロープ状にかさ上げして車両の床となるべく同じ高さにし、車両との間にゴムを取り付け隙間を狭める必要がある。沖縄都市モノレールや大阪メトロが先行して採用した。



国交省は2018年、この方式を広めるため、車いす利用者23人による乗降車実験を実施。車両とホームが接触せず、利用者の約9割がスムーズに乗り降りできた「段差3センチ、隙間7センチ」（コンクリート敷きの線路で直線ホームの場合）を目安値に設定した。

これにより各事業者は対策を急ぎ、同じ条件の線路とホームがある全国1290駅のうち、少なくとも1カ所の乗車口が目安値を満たす駅は、20年10月時点で623カ所に達した。今年6月には東海道新幹線の東京駅でも導入。障害者団体「DPI日本会議」の佐藤聡事務局長は「駅員の介助を待つことがなくなり、（乗車中の）急なルート変更もできるようになった」と歓迎する。

情報提供も盛んだ。交通エコロジーモビリティ財団は6月、駅のバリアフリー情報を扱うサイト「らくらくおでかけネット」に、段差・隙間の情報を追加。出発地と目的地を入力すると、利用する駅で目安値を満たした乗車口を確認でき、全国の駅に対応している。

JR東日本は20年夏ごろから、目安値を満たした乗車口の床面やホームドアをピンク色で目立たせている。国交省は他の鉄道事業者にも導入を働きかけ、これまでに東京メトロや東急電鉄が採用。同省担当者は「車いす利用者が乗降しやすい場所を健常者にも分かるようにすることで、乗車口付近を空けるなど配慮してもらえれば」と話す。

共同通信 9/24(金) 19:56 配信

車いす乗降、運転士らが介助へ 無人駅のバリアフリー対策

国土交通省は24日、無人駅で障害者がスムーズに乗降できるようにするバリアフリー対策素案をまとめた。車いす利用者の乗降を手助けする係員をあらかじめ配置できない場合、運転士や車掌が列車から降りて介助することなどが柱。年度内に具体的な指針を定める。

運転士らによる介助は、列車の遅延などへの懸念から導入が進んでいない。素案は「無人駅であることだけで駅の利用を断るような対応を行わない」と強調。運転士や車掌が携帯スロープを使って介助すれば、車いす利用者が事前連絡なしで鉄道を使える環境整備につながるとした。

事務局からのお知らせ

全国頸髄損傷者連絡会事務局

○秋の全国代表者会議報告

2021年9月5日(日)に秋の全国代表者会議を開催しました。新型コロナウイルス感染症拡大が収束しない状況下であるため、オンラインでの開催としました。21名の代表者が参加しての会議となりました。

会議では、6月5～6日(土～日)に開催した全国総会・京都大会の実施報告がされました。初の試みとして Zoom と Youtube での大会運営が行われ、オンラインのため参加人数こそ把握できませんでしたが、約200名の参加があったとの報告を受けました。開催担当の京都支部から「頸髄損傷者連絡会、脊髄損傷者連合が一緒に取り組んだ大会であったことを記憶にとどめておいてほしい」との結びの言葉で報告は終了しました。そして、来年度の全国総会開催地について再検討を行いました。当初は岐阜支部が担当する予定でしたが、愛媛支部が主軸となり、四国各支部も加わって「四国大会」として開催することになりました。オンライン開催とすることを含め、代表者満場一致で決定しました。また、「頸髄損傷者の自立生活と社会参加に関する実態調査2020」をまとめた「頸損解体新書2020」が完成し、発刊されたことが報告されました。本年10月で契約期間満了であった Zoom のライセンスも契約延長が決定しました。オンラインを活用したイベントの充実化を図ることを代表者全員で確認しました。

次回春の代表者会議は、2022年3月6日(日)にオンラインでの開催が決定しています。

○全国頸髄損傷者連絡会総会開催地の変更について

今年度の全国総会で次期全国総会開催地を岐阜の予定にしておりましたが、秋の全国代表者会議で再検討を行い、四国各支部協力のもと「四国大会」として愛媛県松山市において2022年6月3日(金)・4日(土)の日程で開催することを決定しました。会員の皆様には、総会開催地の変更に伴いご迷惑をおかけすることをお詫びするとともに、オンライン開催となりますがご参加くださいますようお願い申し上げます。

なお、(公社)全国脊髄損傷者連合会の全国総会も来年度は愛媛県松山市で開催されます。本年と同様に、共同プログラムを検討しております。詳細についてはあらためて本誌でお知らせいたします。

オンラインランチミーティングを開催しています！

頸損の仲間と気軽に話す場です。参加しませんか？

現在、全国頸髄損傷者連絡会では、オンライン(Web会議ツール「Zoom」を使用)でランチミーティングを毎月第2土曜日11:30～13:00で開催しています。普段顔を会わせにくい全国の頸髄損傷者や様々な分野に精通した頸髄損傷者と気軽に話せる場として好評です。悩みごとから人生相談まで、生活のノウハウや最新の情報が入手できる機会です。あくまで“昼食を食べながら楽しくコミュニケーションする”場であるとお考えください。覗くだけでも構いません。気軽にご参加ください。

○全国頸髄損傷者連絡会のホームページに開催の詳細情報が掲載されます。

○登録フォームからお申込みいただくと、当日参加するためのURLが送られてきます。

詳しくは、全国頸髄損傷者連絡会ホームページをご覧ください。

<https://k-son.net/>

お問い合わせ：本部事務局 宮野 jacoffice7@gmail.com

大阪頸髄損傷者連絡会の会長就任挨拶

～ 会長に就任しましたー！皆さんよろしくお願いたします！！ ～

大阪頸髄損傷者連絡会 柏岡 翔太

今期から大阪頸髄損傷者連絡会の会長に就任いたしました柏岡翔太と申します。まず「誰？コイツ！」と思った方もたくさんいらっしゃると思うので簡単に自己紹介とケガの経緯など説明をさせていただきます。



自己紹介

平成元年生まれ、5人兄妹の長男で妹が4人、受傷レベルはC2で人工呼吸器を使用しています。スポーツは水泳・空手・剣道・ラグビーをやってきました。好きな食べ物はご飯もの、趣味はラグビー観戦・ネット麻雀やMリーグ観戦、大阪頸髄損傷者連絡会・大東市障害者総合支援協議会当事者の会・NPO法人クレヨン・リンクのサポーターに所属。

ケガの経緯

2005年4月に高校に入学し、ラグビー部に入部して一年が経過した2006年4月に、クラブの練習中、タックルの入り方が悪かったのか首の骨を折る大ケガをしました。タックルをして一瞬何が起こったのかが分からず、あっという間に仰向けになって、部員のみんが心配そうに覗き込んでいました。呼吸出来ていないことに気づき「息ができない」とだけ言って意識を失いました。そしてまもなく呼吸が停止したらしいのですが、幸いなことにラグビー部のOBの方が練習に来ていて、呼吸が止まった

のを見て人工呼吸を行ってくれました。この人工呼吸がなければ最悪の事態に陥っていたかもしれないです。僕の先輩であり命の恩人でもあります。

絶望期

入院中は散々なことが次々と襲い掛かってくる状況でした。主治医の先生から詳しい説明もなく、首の骨が折れたとしか聞かされていなかったのも、何週間か経てば骨がくっついて普通に退院できると軽く思っていました。でも日を追うごとに「もしかしたら相当悪い状態なのかな」と思うようになりました。そして、思い切って先生に「治るんですか？」と聞くと、一生寝たきりの状態で歩くことも食べることも出来ないと言われ、当時16歳だった僕には例えようのない衝撃と絶望感に襲われ、泣くことしか出来ませんでした。その日から精神的に深く沈んでいき、「生きていても意味が無い、死にたい、でも自分で死ぬことは出来ない」この言葉が一日中頭の中を駆け巡っていて、落ちるところまで落ちていきました。

転機

このケガをして二年が経ったころ、ふと高校は卒業しておきたいと思うようになりました。今考えてみるとある二つのことがきっかけになっていたと思います。一つ目は高校一年の時の担任の先生で、ある日その先生からパソコンにメールが届いて「また勉強してみないか」と書いてありました。そのメールは僕に復学を促すものであり、その日から勉強したいという気持ちと無意識的に復学という考えも大きくなっていったのだと思います。二つ目が同級生の卒業というのもきっかけとしては大きかったのだと思います。卒業式が終わってからラグビー部の皆がうちに来てくれて、後日、大学に進学したやつは入学式の後

スーツ姿で家に来てくれました。そのとき僕は、皆は前に進んでいるのに自分は立ち止まったままで離されていく一方だと、ぼんやりとそう感じていました。この二つがきっかけで復学を考えるようになり卒業しておきたいという想いが強くなったのだと思います。先生に復学をして卒業したいと伝え、一年間の準備を経て復学することになります。

三年間引きこもりの日々でしたが、この二つのことがきっかけで高校復学という目標ができ、それが生きる意味を見出しました。

そこから一気に動き出していき、高校復学そして卒業をして大学に進学をしてしっかりと4年間で卒業をしました。2020年9月末で退職しましたが行政書士事務所で勤務をしていました。今思うと本当

に人に恵まれているなど実感しています。いろいろとお話できることがあるのですが、今回はこのへんで(笑)。もう少し詳しく知りたいという方は大阪頸髄損傷者連絡会のホームページにある「機関誌「頸損だより」」の頸損だより 2018 秋冬合併号 (No.147・148) 2018年12月2日発送をご覧いただけたらと思います。

最後に

正直に言うと会長ってどんなことをするのかよく分かっていません。もちろん自分一人では何もできないので皆さんの力をお借りしながら、皆で大阪頸髄損傷者連絡会を盛り上げていきたいと思っています！全国頸髄損傷者連絡会にも加わっていきたくと思っています。これから皆さんよろしく願いいたします！

全国頸損連絡会&関係団体“年間予定”

(2021年12月～2022年6月)

事務局

年間予定は、新型コロナウイルスの影響により、変更される可能性があります

詳しくは主催者にご確認ください

[2021]

12月11～12日(土～日) D P I 日本会議常任委員会 (オンライン)

[2022]

2月 第13回バリアフリー推進四国地域連絡会議
 2月12～13日(土～日) D P I 日本会議常任委員会 (オンライン)
 2月20日(日) 兵庫支部・リモート座談会 (オンライン)
 3月6日(日) 春の全国代表者会議 (オンライン)
 6月4～5日(金～土) 第49回全国頸髄損傷者連絡会総会・四国大会 (オンライン)
 6月4～6日(金～日) (公社)全国脊髄損傷者連合会第21回定時総会愛媛大会 (リアル&オンライン)
 6月8～10日(水～金) 第28回 高齢者・障がい者の快適な生活を提案する総合福祉展バリアフリー2022 (インテックス大阪&オンライン)

※ 予定日時・場所は変更になる場合がありますのでご了承ください。

※ 全国機関誌『頸損』発行 4月・8月・12月(年3回)

※ お問い合わせは該当各支部、本部事務局までお願いいたします。

全国頸髄損傷者連絡会連絡先

(2021年11月現在)

全国頸髄損傷者連絡会・本部

〒669-1546 兵庫県三田市弥生が丘1丁目1番地の1 フローラ 88 305B 特定非営利活動法人ぼしぶる内

TEL 079-555-6022 e-mail:jaqoffice7@gmail.com <https://k-son.net/>

【郵便振替】口座番号:00110-0-62671 口座名義:全国頸髄損傷者連絡会

※ 各支部、地区窓口に連絡がつかない場合は本部にお問い合わせください。

※ 電話でのお問い合わせ等は、平日10時~17時の間をお願いいたします。

福島地区窓口「福島頸損友の会」

〒961-8031 福島県西白河郡西郷村大字米字中山前146-1(相山方)

TEL 080-1656-1727 e-mail:hidamari.s@gmail.com <http://fukushima-keitomo.e-whs.net/>

栃木頸髄損傷者連絡会

〒320-8508 栃木県宇都宮市若草1丁目10番6号 とちぎ福祉プラザ内(2F)

TEL&FAX 028-623-0825 e-mail:keison@plum.plala.or.jp <http://www16.plala.or.jp/tochigi-keison/>

東京頸髄損傷者連絡会

〒177-0041 東京都練馬区石神井町7-1-2 伊藤マンション 205(鴨治方)

TEL 090-8567-5150 e-mail:tokyokeison@gmail.com <http://www.normanet.ne.jp/~tkyksen/index.html>

神奈川頸髄損傷者連絡会

〒228-0828 神奈川県相模原市麻溝台696-1 ライム106号室(星野方)

TEL&FAX 042-777-5736 e-mail:h-futosi@wa2.so-net.ne.jp

静岡地区窓口

〒426-0016 静岡県藤枝市郡1-3-27 NPO 法人障害者生活支援センターおのころ島気付

TEL 054-641-7001 FAX 054-641-7181 e-mail:matunosuke@cy.tnc.ne.jp

愛知頸髄損傷者連絡会

〒466-0035 愛知県名古屋市昭和区松風町2-28 ノーブル千賀1F AJU自立生活情報センター内

TEL 052-841-6677 FAX 052-841-6622 e-mail:kito@aju-cil.com

頸髄損傷者連絡会・岐阜

〒503-0006 岐阜県大垣市加賀野4-1-7 ソフトピアジャパン702 バーチャルメディア工房内

TEL&FAX 0584-77-0533 e-mail:kson_g@yahoo.co.jp <http://g-kson.net/>

京都頸髄損傷者連絡会

〒601-8441 京都府京都市南区西九条南田町4番地 九条住宅B棟313(村田方)

TEL 090-8886-9377 e-mail:keison@ev.moo.jp

大阪頸髄損傷者連絡会

〒534-0027 大阪府大阪市都島区中野町3-4-21 ベルエキップ・オグラン1階 自立生活センターあるる内

TEL&FAX 06-6355-0114 e-mail:info@okeison.com <http://okeison.com>

兵庫頸髄損傷者連絡会

〒669-1546 兵庫県三田市弥生が丘1丁目1番地の1 フローラ 88 305B 特定非営利活動法人ぼしぶる内

TEL 079-555-6229 FAX 079-553-6401 e-Mail:hkeison@yahoo.co.jp <http://hkeison.net/>

香川頸髄損傷者連絡会

〒768-0104 香川県三豊市山本町神田1223(長谷川方)

TEL 0875-63-3281 e-Mail:tsu-chan.h@shirt.ocn.ne.jp

愛媛頸髄損傷者連絡会

〒799-0433 愛媛県四国中央市豊岡町豊田336-2(山下方)

TEL 0896-25-1290 e-mail:ehimekeison@gmail.com

徳島頸髄損傷者連絡会

〒779-1402 徳島県阿南市桑野町岡ノ鼻28番地(江川方)

TEL 0884-21-1604 e-mail:awakeisons@gmail.com

九州頸髄損傷者連絡会

〒874-0919 大分県別府市石垣東3丁目3番16号 別府J1階 NPO 法人自立支援センターおおいの内

TEL 0977-27-5508 FAX 0977-24-4924 e-mail:kkkr@jp700.com



栃木支部より：昨年、宇都宮市にカンセキスタジアム（栃木県総合運動公園陸上競技場）が建設されました。来年栃木県で行われる国体や全国障害者スポーツ大会のメイン会場として使われる他、地元のプロサッカーチーム栃木 SC の試合も開催されます。車椅子席も 128 席作られています。席からの見えやすさなどは実際に競技を観戦して確かめたいと思います。また周辺の道路も整備し直され、最寄りの東武宇都宮線西川田駅にはエレベーターが新設されました。

編集部通信

●頸損者に役立つ情報、編集企画、また機関誌へのご意見を募集しております

編集部連絡先（担当：八幡） E-mail：bxn06214@nifty.com

全国頸損連絡会・本部事務局 E-mail：jagoffice7@gmail.com

TEL：079-555-6022

●当会では、善意の活動支援寄付もお願いしております

郵便振替口座番号：00110-0-62671 口座名義：全国頸髄損傷者連絡会

■機関誌広告募集 年3回発行（4月・8月・12月）

機関誌「頸損」は、全国頸損会員（約500名）及び関係する方々に購読していただいています。当会では、広告掲載して活動支援をしていただける、福祉・医療機器業者の方を募集しております。当会HP <http://k-son.net/> をご参照いただき、是非、広告掲載をご検討いただけたら幸いです。

[広告掲載要綱]

◎料金：1ページ・2万円 / 半ページ・1万円（※1年以上継続契約の場合は半額割引）

◎問い合わせは上記の編集部連絡先、または本部事務局までお願いいたします。

編集後記

ここの所、やっとコロナの感染者も少なくなり、各地で緊急事態宣言も解け、人が外に出るようになってきた。私も所用で外に出かけなければならない時があるが、やはり以前よりも外出している人が多く見える。国は3回目のワクチン接種に向けて準備し始めている。頸損は基礎疾患を有する者が多く、まだまだ油断できない状況であると言える。また、頸損には厳しい冬の季節となるが、あらゆるものを駆使し、これからの生活に対応していくことになるだろう。こんな時だからこそ、今まで出来なかった事や、してみたかった事を計画したり、チャレンジしてみるのも良いのではないかと思う。

(S・K)

昭和四十六年八月七日第三種郵便物認可（毎月六回一・六の日発行）
二〇二一年十一月二十二日発行 SSKA頸損 通巻第一〇六四九号

編集人

東京都練馬区石神井町
七―一―二―一〇五
全国頸髓損傷者連絡会

発行人

東京都世田谷区祖師谷三―一―十七
ヴェルドゥーラ祖師谷一〇二号室
障害者団体定期刊行物協会

全国頸髓損傷者連絡会

〒669-1546

兵庫県三田市弥生が丘1丁目1番地の1

フローラ 88 305B 特定非営利活動法人ぼしぶる内

TEL : 079-555-6022 Email : jaqoffice7@gmail.com

頒価 250 円

無断転載・複製を禁じます